デジタルビデオレコーダー

SHR-3091N/3161N

取扱説明書

警告

感電の恐れあり！
開けないで下さい！

警告：感電する恐れがありますので、カバーを開けないで下さい。
修理は専門のサービスマンに任せて下さい。

左のマークは機器内部に絶縁処理が施されておらず、感電の恐れのある「危険電圧個所」の存在を警告し、表示しています。

左のマークは機器を説明する文書の中で、重要な操作方法やメンテナンス（サービス）指示が掲載されていることを表しています。

より安全にお使いいただくために

1. お使いいただく前に「取扱説明書」を十分にお読み下さい。
2. 「取扱説明書」は大切に保管して下さい。
3. 機器を清掃する場合は、かならず前もってコンセントからプラグを抜いて下さい。汚れたら液体洗剤やエアゾール洗剤は使用しないで乾いた布でふき取って下さい。
4. 弊社製品以外の付属品は、火災・感電・けがの恐れがあるため使用しないで下さい。
5. 機器を水の近くに（例えば：浴槽・洗面台・流し台・洗濯機・湿気の多い地下・プールなど）置いたり、そこで使用したりしないで下さい。
6. 不安定なカート・スタンド・机の上に機器を置かないで下さい。機器が落ちてケガをしたり、機器そのものに損傷をきたしたりすることがあります。「取扱説明書」で指定された移動カートやスタンドをご使用ください。移動カートを動かすときは急回転・超過重避けて安定した状態で、慎重に移動させて下さい。

7. 表示されている電源の種類にしたがって、運用して下さい。種類がわからない場合は、販売店または電力会社にご相談下さい。
8. 機器を取り扱う際には接続されている電源および**TNT**を取り外して下さい。
9. 雷が発生している際や、長期間お使いにならない場合は、雷や送電線からのサージ（＝電流・電圧の瞬間的に急増すること）を避けるため、電源、アンテナその他のケーブルを外しておいて下さい。
10. コンセントや延長コードに過電流を流さないようにして下さい。火災や感電の恐れがあります。
11. 機器を開けて中身を押したりしないで下さい。危険な電圧個所に触れたり、部品がショートして火事や感電につながる恐れがあります。
12. 機器をご自分で修理しないで下さい。修理・整備点検は専門のサービスマンにお任せ下さい。
13. 次のような場合は速やかにプラグをコンセントから抜き、専門のサービスマンにご相談下さい。

A. 電源コード及びプラグが損傷したとき。
B. 機器の中に液体をこぼした場合また異物が中に入った場合。
C. 機器が、雨や水に濡れた場合。
D. 「取扱説明書」にしたがって作動させても正常に動作しない場合。不適切な調整は、機器に損傷を与えるばかりでなく、機器を正常動作に復元するため、専門技術者による長時間にわたる作業を必要とする可能性があります。
E. 機器を落としたり、カバーを損傷したりした場合。
F. 機器の性能が著しく変化して、修理が必要になったとき。

14. 部品交換が必要になった場合、弊社の指定部品または同等性能部品かどうかを確認してご使用下さい。指定外の部品をご使用になると火災や感電等の恐れがあります。
15. 機器の修理や点検を受けたときは、専門のサービスマンに安全確認をしてもらい、適切な作動状態にあるか、正常な動作をしているかを確認してもらって下さい。
16. 設置は専門のサービスマンに任せ、運用にあたっては法律条令を確認して下さい。
17. 専用のバッテリーと交換しないと爆発の恐れがあります。使用済みのバッテリーの処分方法については専門のサービスマンにご相談下さい。
18. 仕様に明示されている動作温度環境内で運用して下さい。
19. ラック内等に設置すると、ラック内の温度は部屋の温度より高くなることがありますので、注意して下さい。
20. ラック内に設置する際は、安全に運用するため十分に空気の流れがあることが必要となります。
21. ラック内に設置した機器の上などに不必要に他の機器などを重ねて置いたりしないで下さい。
22. 備え付け回路への機器の接続の際、過電流保護回路、すでに供給されている電気配線へ負荷を与えすぎないよう気を付けて下さい。不明な時は機器に表示されている格付けを参照して下さい。
23. ラック内に設置された機器は適切にアースがなされていることを確認して下さい。分岐回路へ直接接続する場合（例：電源ストリップを使用する）を除いては、電源の接続は特にご注意下さい。

目 次

第1章　はじめに 1
特徴 1
技術概要 2

第2章　設置 3
製品に含まれるもの 3
設置に必要な工具 3
NTSC/PAL設定ユニット 4
ビデオソース接続 4
ループスルー映像の接続 4
モニター接続 5
音声の接続 5
アラーム接続 6
AI 1～16（アラーム入力） 6
GND（アース） 6
AO1～4（アラーム出力） 7
ARI（アラームリセット入力） 7
RS485への接続 7
ネットワークポートへの接続 8
USBポートへの接続 8
ウルトラワイドSCSIポートへの接続 8
RS232ポートへの接続 9
ファクトリーリセット 9
電源コードの接続 10

第3章　設定 11
前面パネルコントロール 11
Cameraボタン（1～16） 11
POWER LED 11
NETWORK LED 11
BACKUP LED 11
DUPLEX LED 12
PTZ ボタン 12
MODE/TELEボタン 12
SEQUENCE/WIDEボタン 12

FREEZE/FARボタン 12
ALARM/NEARボタン 12
SPOT/PRESETボタン 12
MENU/VIEWボタン 13
SEARCH/STOP ボタン 13
RW（巻き戻し）ボタン 13
PREV(プレビアス）ボタン 13
PLAY/PAUSEボタン 13
NEXTボタン 13
FF(早送り)ボタン 13
PANIC ボタン 14
ENTERボタン 14
上、下、左、右矢印ボタン 14
電源を入れる 14
初期設定 14
簡易設定画面 15
通常設定画面 16
システム情報 17
日付／時刻設定 19
システムチェック画面 22
保存媒体画面 23
システムログ（履歴）画面 26
システム終了 26
接続する機器の設定 27
カメラ設定画面 27
アラーム入力設定画面 29
モーション検知 29
アラーム出力設定画面 32
音声設定画面 33
RS232／RS485設定画面 34
記録の環境設定 35
録画モード設定画面 35
タイムラプス録画モード設定画面 36
タイムラプス録画スケジュール 37
プリイベント録画設定画面 38
イベントアクション設定 39
アラーム入力イベントアクション（記録）設定画面 39

アラーム入力イベントアクション（アラーム出力）設定画面 40
アラーム入力イベントアクション（通報）設定画面 41
モーション検知イベントアクション（録画）設定画面 42
モーション検知イベントアクション（アラーム出力）設定画面 43
モーション検知イベントアクション（通知）設定画面 44
ビデオロスイベントアクション（録画）設定画面 45
ビデオロスイベントアクション（アラーム出力）設定画面 46
ビデオロスイベントアクション（通報）設定画面 47
表示設定 48
OSD（オンスクリーン表示）設定 48
メインモニタリング設定画面 49
スポットモニタリング設定画面 50
ネットワーク設定画面 51
LAN設定画面 52
モデム設定画面 53
コールバックセンター設定画面 54
パスワード設定画面 56
設定画面 57
アーカイブ 58
初期設定の読込 62
全データの消去 62

第４章　運用 63
電源を立ち上げる 63
ライブ監視 63
カメオ実行モード 64
PIPモード 64
PTZモード 64
映像記録 66
音声記録 66
記録映像の再生 66
RW（巻き戻し）ボタン 66
FF（早送り）ボタン 66
SEARCH/STOP（検索／停止）ボタン 67
カメラボタン１～１６ 67
MODE/TELEボタン 67
映像検索 67
データソースを変更する 68

日付／時刻検索 68
カレンダー検索 69
イベント検索 70

付録A　USBハードディスク準備 73
Windows2000版でUSB-IDEハードディスクを準備する 73
Windows98版でUSB-IDEハードディスクを準備する 74

付録B　ビデオクリップを見る 75

付録C　トラブルシューティング 77

付録D　コネクターピン出力 78
アラームI/Oコネクターおよび RS485コネクターピン出力 78

付録E　ハードディスクの増設および交換 79
ハードディスクの増設 79
ハードディスクの取り外し 79
ハードディスクの交換 79
ケースⅠ: 異常のあるマスターハードディスクを交換する 79
ケースⅡ: 異常のあるスレーブハードディスクを交換する 80
ハードディスクを他のデジタルレコーダーに移設する 80

付録F　画面マップ 81

付録G　仕様 82

イラスト目次

イラスト1　デジタルビデオレコーダー接続例 1
イラスト2　１６チャンネルデジタルビデオレコーダー背面パネル 3
イラスト3　NTSC/PALスイッチ 4
イラスト4　映像入力コネクター 4
イラスト5　映像ループスルーコネクター 4
イラスト6　映像出力コネクター 5
イラスト7　音声入力／音声出力コネクター 5
イラスト8　アラーム入力／アラーム出力およびRS485コネクター 6
イラスト9　アラーム入力／アラーム出力ボードおよびアラームコネクターストリップ 6
イラスト10　RS485コネクター 7
イラスト11　ネットワークコネクター 8
イラスト12　USBコネクター 8
イラスト13　SCSIコネクター 8
イラスト14　RS232コネクター 9
イラスト15　ファクトリーリセットスイッチ 9
イラスト16　電源コードコネクター 10
イラスト17　デジタルビデオレコーダーフロントパネル（図は16チャンネル） 11
イラスト18　管理者パスワード画面 14
イラスト19　単純設定画面 15
イラスト20　通常設定画面 16
イラスト21　システム情報画面 17
イラスト22　システム情報変更画面 17
イラスト23　キーボード 18
イラスト24　システムアップグレード画面 19
イラスト25　日付／時刻設定画面 19
イラスト26　公休日設定画面 20
イラスト27　時刻同期 21
イラスト28　システムチェック画面 22
イラスト29　保存媒体画面 23
イラスト30　S.M.A.R.T. 設定画面 25
イラスト31　システムログ画面 26
イラスト32　機器メニュー画面 27
イラスト33　カメラ設定画面 27
イラスト34　PTZ機器リスト 28
イラスト35　アラーム入力設定画面 29
イラスト36　モーション検知設定画面 29
イラスト37　動作検知領域画面 30
イラスト38　動作検知領域メニュー画面 31
イラスト39　アラーム出力設定画面 32
イラスト40　アラーム出力スケジュール画面 32
イラスト41　音声設定画面 33
イラスト42　RS232／RS485設定画面 34
イラスト43　記録モード設定画面 35

イラスト44　タイムラプス記録設定画面 36
イラスト45　タイムラプス記録スケジュール画面 37
イラスト46　プリイベント録画設定画面 38
イラスト47　アラーム入力イベントアクション（録画）設定画面 39
イラスト48　アラーム入力イベントアクション（アラーム出力）設定画面 40
イラスト49　アラーム入力イベントアクション（通知）設定画面 41
イラスト50　動作検知イベントアクション（録画）設定画面 42
イラスト51　モーション検知イベントアクション（アラーム出力）設定画面 43
イラスト52　モーション検知イベントアクション（通知）設定画面 44
イラスト53　ビデオロスイベントアクション（記録）設定画面 45
イラスト54　ビデオロスイベントアクション（アラーム出力）設定画面 46
イラスト55　ビデオロスイベントアクション（通報）設定画面 47
イラスト56　OSD設定画面 48
イラスト57　メインモニタリング設定画面 49
イラスト58　スポットモニタリング設定画面 50
イラスト59　ネットワーク設定画面 51
イラスト60　LAN設定画面 52
イラスト61　RS232／RS485設定画面 53
イラスト62　コールバックセンター（LAN）設定画面 54
イラスト63　コールバックセンター（モデム）設定画面 55
イラスト64　パスワード設定画面 56
イラスト65　設定画面 57
イラスト66　アーカイブ画面 58
イラスト67　アーカイブ設定画面 58
イラスト68　マニュアルアーカイブ画面 59
イラスト69　クリップコピー画面 60
イラスト70　USB 機器選択画面 61
イラスト71　ディスクパーティション選択画面 61
イラスト72　PTZプリセット画面. 65
イラスト73　プリセット確認画面. 65
イラスト74　検索メニュー 67
イラスト75　データソース画面の変更 68
イラスト76　日付／時刻検索画面 68
イラスト77　カレンダー検索画面 69
イラスト78　イベントログ画面 70
イラスト79　イベント検索（カメラ）画面 70
イラスト80　イベントサーチ（イベント）画面 71
イラスト81　Smart View画面 75

第1章　はじめに

特徴

本カラーデジタルレコーダー（DVR）では９台（SHR-3090）または１６台（SHR-3160）のカメラの映像を記録することができます。ライブモードと再生モードの両方において高画質な映像を見ることができ、また以下のような特徴があります。

- ９または１６コンポジット入コネクター
- カラー（NTSCまたはPAL)、白黒(CCIRおよびEIA-170)ビデオソース互換機
- 複合検索エンジン（日付／時刻、カレンダー、イベント）
- 最大記録枚数６０イメージ／秒〔NTSC〕
- “ループスルー”ビデオコネクター
- 上書きモードにおける連続記録
- ウルトラSCSIインターフェイス経由の映像保存
- バックアップ、遠隔地への画像伝送および再生中における連続記録
- ユーザーに使いやすいGUI(グラフィカルユーザーインターフェイス)メニューシステム
- ２種類の記録モード（時間およびイベント）
- 音声記録および再生
- アラーム接続可能：入出力およびリセット入力
- アラームブザー搭載
- イーサネットまたはモデム経由のライブまたは記録映像へのアクセス

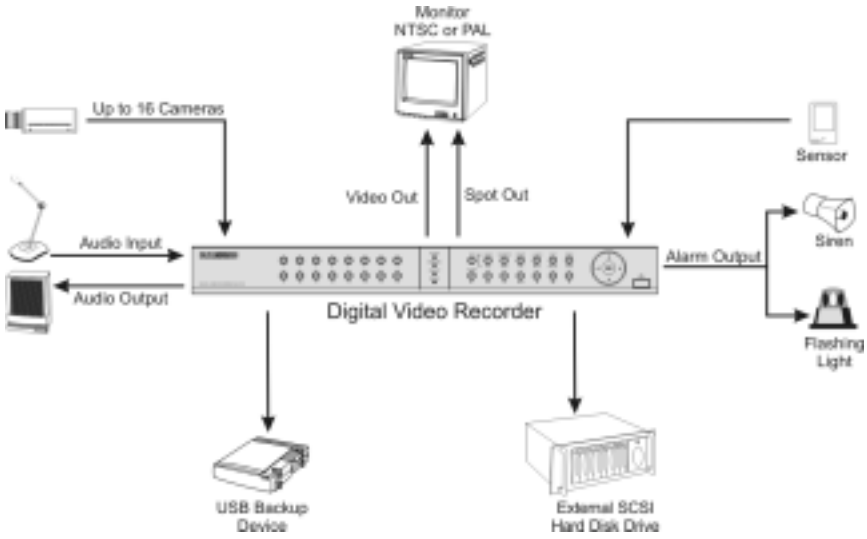


イラスト1　デジタルビデオレコーダー接続例

技術概要

デジタルビデオレコーダーは防犯カメラシステムにおいてタイムラプスビデオとマルチプレクサーに変わる役割を果たすことができます。加えて最新のタイムラプスビデオよりも多彩な機能を持ち、簡単に操作することができます。

デジタルビデオレコーダーはアナログのNTSCまたはPAL映像信号をデジタル画像へ変換し、ハードディスクに記録します。ハードディスクを利用することで、瞬時に記録された映像にアクセスでき、テープを巻き戻す必要がありません。また映像を記録しながらすでに記録された映像を再生することが可能です。

デジタルで記録された映像はアナログでテープに記録された映像に比べていくつかの利点があります。トラッキングを調整する必要はありませんし、画像が乱れることなくフレームの静止、早送り、巻き戻し、スロー再生、スロー逆再生の操作を行なうことができます。デジタル映像は時刻やイベントによって索引情報となり、時刻またはイベントを選択するとすぐにその映像を見ることができます。

デジタルビデオレコーダーではイベント記録またはタイムラプス記録の設定ができます。記録する時間を定義でき、記録スケジュールは一週間の曜日ごとに変更でき、また休日の設定も行なえます。

デジタルビデオレコーダーはハードディスクの容量が一杯になるとお知らせするよう設定することもできますし、過去の映像に上書きして記録することもできます。

デジタルビデオレコーダーは映像の改ざんをほぼ不可能にする独自の暗号化技術を使用しています。

モデムまたはイーサネット経由の接続により遠隔地から映像を見たり、本機を制御できます。外部ハードディスクに映像を記録したり、バックアップできるSCSIポートが１つ、システムをアップグレードしたり、外部ハードディスク、外部CD-RW、またはフラッシュメモリにビデオクリップをバックアップできるUSBポートが２つあります。

注）本取扱説明書は９チャンネルデジタルビデオレコーダ（SHR-3091）および１６チャンネルデジタルビデオレコーダー（SHR-3161）の両方のモデルについて書かれています。両機種は、接続できるカメラの数およびアラームの数、画面表示されるカメラの数を除くとほぼ同一の仕様です。

第2章　設置

製品に含まれるもの

本製品には下記のものが含まれています。

- デジタルビデオレコーダー本体
- ACアダプター（電源コードを含む）
- 取扱説明書（本書）
- Smart View（遠隔監視用ソフトウェトウェア）CDおよびCD版取扱説明書
- ラック取付用キット

設置に必要な工具

デジタルビデオレコーダーを設置するために特別な工具を必要としません。システムを構成する他の機器の取扱説明書も参照して下さい。

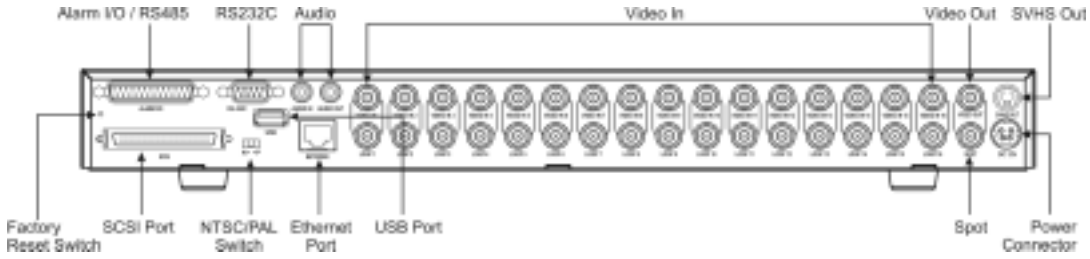


イラスト2　１６チャンネルデジタルビデオレコーダー背面パネル

NTSC/PAL設定ユニット

イラスト3　NTSC/PALスイッチ

本機はNTSC、PALのいずれの機器とも接続して使用することが可能です。
本機の電源を入れる前に、NTSC/PALスイッチを接続する機器に応じてN（NTSC）またはP（PAL）に合わせて下さい。

注）NTSCおよびPALの機材を同一システム内で一緒にはお使いにはなれません。（例： PALのビデオカメラとNTSCのモニターなど）

警告）NTSCからPALまたはPALからNTSCへスイッチを切り替える時はファクトリーリセット（工場出荷時設定）スイッチを押して全てのデータを消去して下さい。ファクトリーリセットスイッチを押さないと、本機が正しく動作しないことがあります。

ビデオソース接続

イラスト4　映像入力コネクター

同軸ケーブルでビデオソース（ビデオカメラ等）を本機の“VIDEO IN”コネクター（BNC）に接続して下さい。

ループスルー映像の接続

イラスト5　映像ループスルーコネクター

他の機器とビデオソースを接続したい場合は、“LOOP ”コネクター（BNC）を使用することができます。

注）LOOPスルーコネクターは自動終端です。画質が悪くなる原因となりますので、別の終端機器に接続しない場合は、ケーブルをLOOP端子に接続しないで下さい。

モニター接続

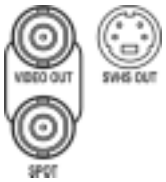


イラスト6　映像出力コネクター

モニターを“VIDEO OUT”（BNC）または“SVHS OUT”のいずれかのコネクターと接続して下さい。

注）接続するモニターにSVHS入力があるときは、SVHSを利用すると、より鮮明な映像が得られます。

注）“VIDEO OUT”（BNC）コネクターと“SVHS OUT”コネクターはそれぞれ別のモニターに接続して同時に運用することが可能です。

音声の接続

注）「音声記録が法律や条例で許可されているかどうか」の判断はユーザーの責に帰すこととなります。

イラスト7　音声入力／音声出力コネクター

本機は音声記録が可能です。音源を“AUDIO IN”に接続し、“AUDIO OUT”とお手持ちのアンプを音声コード（別売）で接続して下さい。

注） 本機には音声出力装置がありませんので、アンプを搭載したスピーカーが別途必要となります。音声入力（信号）は増幅されたソース、またはマイクから直接のものとなります。

アラーム接続

イラスト8　アラーム入力／アラーム出力およびRS485コネクター

イラスト9　アラーム入力／アラーム出力ボードおよびアラームコネクターストリップ

“アラーム I/Oポート”（DB-25オスコネクター）はアラーム入力およびアラーム出力を接続できます。アラーム用のケーブルを“アラーム I/Oボード”上のコネクターに接続し、次にそのボードを“アラーム I/Oポート”と接続して下さい。

警告）DB-25オスコネクターに直接アラーム用のケーブルを接続しないで下さい。

注)アラームI/OボードはアラームコネクターストリップとRS485コネクターで構成されています。

AI 1〜16（アラーム入力）

イベントが発生した時に本機に信号を送る外部機器を用いることができます。機械的または電気的にAI（アラーム入力）およびGND（アース）コネクターに接続できます。しきい値（＝反応を起こさせるため加えなければならない最小値）電圧は、4.3Vで、検知するためには最低0.5秒以上安定した状態である必要があります。アラーム入力を設定するには「第３章　設定」をご覧下さい。

GND（アース）

注）GNDの表示がある全てのコネクターは共通です。

アラーム入力および（または）アラーム出力のアース側をGNDコネクターと接続して下さい。

AO1～4（アラーム出力）

本機を利用してブザーやライトといった外部機器を動作させることが可能です。動作させる外部機器をAO（アラーム出力）およびGND（アース）コネクターに接続して下さい。AOは12Vの時5mA、5Vの時30mAの電流を吸い込むアクティブローオープンコレクター形式です。
アラーム出力を設定するには「第３章　設定」をご覧下さい。

ARI（アラームリセット入力）

アラームリセット入力のための外部信号はアラーム出力信号および本機の内部ブザーの両方をリセットするのに用いられます。機械的または電気的にAI（アラーム入力）およびGND（アース）に接続できます。しきい値電圧は、4.3Vで検知するためには最低0.5秒以上安定した状態である必要があります。アラーム用のケーブルをARI（アラームリセット入力）およびGND（アース）コネクターに接続して下さい。

RS485への接続

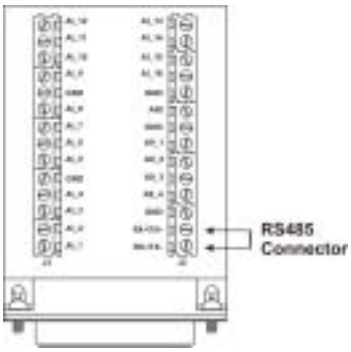


イラスト10　RS485コネクター

本機はRS-485 半二重シリアル通信信号を使い、コントロールキーボードなどの外部機器やコントロールシステムにより遠隔制御することができます。RS485コネクターではPTZ（パン、チルト、ズーム）カメラを操作することも可能です。コントロールシステムのRX+およびTX+を本機のRX+/TX+と、RX-およびTX-をRX-/TX-と接続して下さい。RS485接続の設定については「第３章　設定」およびPTZカメラのメーカー取扱説明書をご覧下さい。

ネットワークポートへの接続

イラスト11　ネットワークコネクター

本機は10/100Mbイーサネットコネクターを利用してネットワーク運用が可能です。RJ-45ジャックのついたCat5ケーブルをネットワークコネクターに接続して下さい。また、本機は遠隔監視、検索、設定およびソフトウェアのアップグレードを行なうのにコンピューターを用いてのネットワーク運用が可能です。イーサネットコネクター設定を行なうには「第３章　設定」をご覧下さい。

USBポートへの接続

イラスト12　USBコネクター

USBポートが２つあり、映像のバックアップやシステムのアップグレードのため外付ハードディスク、外付CD-RW、フラッシュメモリを接続することができます。外付ハードディスクや外付CD-RWはケーブルで接続できるよう本機の近く（約2m以内）に置いてください。ハードディスクやCD-RWに付属のUSBケーブルを用いて本機と接続して下さい。

ウルトラワイドSCSIポートへの接続

イラスト13　SCSIコネクター

SCSIポートは映像を記録したりバックアップするために外部記憶装置を接続するためのものです。外部SCSIハードディスク（RAID）用ケーブルを高密度68ピンメスウルトラワイドSCSIコネクターへ接続して下さい。SCSIケーブルの長さは1.5mを越えないようにして下さい。最大15台までのウルトラワイドSCSIハードディスクを接続できます。
※SCSI機器のIDはそれぞれ、0,1,2,3,4,5,6,8,9,10,11,12,13,14,15に設定して下さい。

注）ID番号7はホストへ割り当てられますのでSCSI機器のIDには設定しないで下さい。

注）本機が正しく動作しませんのでSCSIバスは適切に終端させて下さい。

警告）本機の電源がONの状態でSCSI機器を接続しないで下さい。SCSI機器は本機の電源を切った状態で接続し、接続が完了した後、本機の電源を再度ONにして下さい。本機の電源をONにするのに先立って運用の準備ができるようSCSIの機器の電源をONにして下さい。

警告）SCSI機器を運用中に電源を切ると、本機が正しく動作しないことがあります。

RS232ポートへの接続

イラスト14　RS232コネクター

RS232ポートは遠隔監視のための外部モデム接続、環境設定、ソフトウェアップグレードおよび遠隔制御用キーボード接続のためのものです。DB-9S(メス)コネクターのついたモデムケーブルを用いて本機と接続して下さい。モデムの設定については「第3章 設定」をご覧下さい。

注）本機にモデムケーブルは含まれておりません。また、ほとんどのモデムにもケーブルは含まれておりません。モデムを購入される際はそのモデムにあったケーブルをお持ちであるかをご確認下さい。

ファクトリーリセット

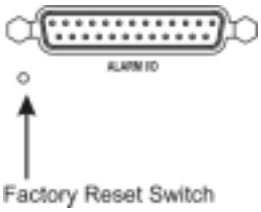


イラスト15　ファクトリーリセットスイッチ

USBポートの右側にファクトリーリセットスイッチがあります。全ての設定を工場出荷時の状態に戻したい時にこのスイッチを用います。

警告）ファクトリーリセットスイッチを押すと行なった全ての設定が初期化されます。

リセットを実行するには、先のとがったクリップ等を用意して下さい。

1. 本機の電源を切る。
2. 再度電源を入れる。
3. 本機が初期化している間、USBポートの右側にある穴にクリップ等を差し込んで押す。
4. 前面パネルの全てのLEDが点灯するまで押し続ける。

注）本機が工場出荷時の初期状態にリセットされると、前面パネルの全てのLEDが３回点滅します。

5. リセットスイッチを押すのを止めます。全ての設定が工場出荷時の状態に戻ります。

電源コードの接続

イラスト16　電源コードコネクター

アダプターのDC電源コードを本機に接続して下さい。次にAC電源コードをアダプターに接続し、電源プラグをAC100V家庭用コンセントに差し込んで下さい。

重要）・電源コードにつまずかないようにコードを配置して下さい。
・電源コードが家具の下敷きになったり、傷付いたりしないように注意して下さい。
・敷物やカーペットの下に電源コードを配置しないで下さい。
・電源コードにはアース棒がついています。コンセントにアース棒の受容器がない場合プラグを加工しないで下さい。
・１つの回路に多くの機器の電源をつないで、過電流が流れないようご注意下さい。

これで本機の運用の準備ができました。「第３章　設定」および「第４章　運用」へすすんで下さい。

第3章　設定

注）本機は設定を行なう前に設置が完了されている必要があります。詳しくは「第２章 設置」をご覧下さい。

前面パネルコントロール

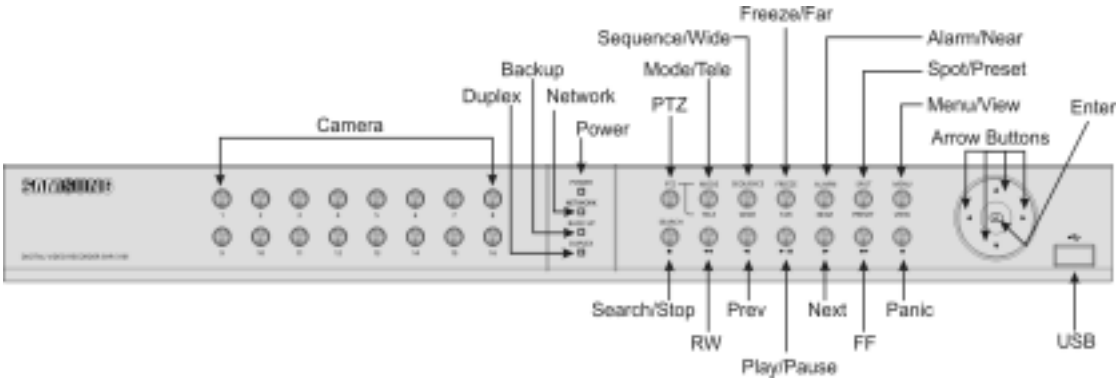


イラスト17　デジタルビデオレコーダーフロントパネル（図は16チャンネル）

前面パネルはマルチプレクサーとビデオデッキを一つにしたような外観をしており、運用方法も同様です。操作ボタンの多くには複合機能があります。各ボタンのはたらきは下記の通りです。各ボタンは本機の初期設定および運用に用います。

Cameraボタン（1～16）

ボタンを押すと、選択したカメラの映像が全画面で表示されます。
パスワード入力にも用います。

POWER LED

本機の電源がONの時、点灯します

NETWORK LED

本機がイーサネットまたはモデム経由でSmart View(遠隔監視システム)に接続されている際に点灯します。

BACKUP LED

USBポートを使ってデータのバックアップを行なっている際に点灯します。

DUPLEX LED

記録をしながら再生を行なうことが可能な“DUPLEXモード”で運用されている際に点灯します。

PTZ ボタン

PTZボタンを押すと、コントロールが可能なカメラの画面枠が白く反転し、設定されたカメラのパン、チルト、ズームの制御を行なうことができます。

MODE/TELEボタン

MODE/TELEボタンを押すと表示画面を切り替えることができます。
表示画面は「全画面」、「４×４」、「３×３」、「２×２」およびPIP（画面内画面）です。
PTZモードではズームインします。

SEQUENCE/WIDEボタン

ライブモード中にSEQUENCE/WIDEボタンを押すと他の全てのライブチャンネルがシーケンシャル（一定間隔で映像切替）表示されます。マルチ画面表示の際にこのボタンを押すと、２つのシーケンスモード「ページ」または「カメオ」でカメラの映像を順番に表示します。ページモードではユーザーが定めた画面レイアウトで映像を順番に表示し、カメオモードでは画面右下にライブのカメラ映像を順番に表示します。シーケンスモード中にSEQUENCE/WIDEボタンを押すとシーケンスモードを終了します。PTZモードではズームアウトします。

FREEZE/FARボタン

FREEZE/FARボタンを押すと表示しているライブ画面をフリーズ(静止)します。PTZモードではフォーカス調整のFARとなります。

ALARM/NEARボタン

ALARM/NEARボタンには２つの機能があります。１つめはアラーム入力があった際の内部ブザーを含む本機の出力信号をリセットします。２つめはアラームモード状態を除くライブの監視モードの時にイベントログを表示します。この操作はユーザーパスワードにより保護されます。PTZモードではフォーカス調整のNEARとなります。アラーム信号が出力されている状態の時、ALARM/NEARボタンLEDが点灯します。ALARM/NEARボタンを押してアラーム信号出力がリセットされると、アラーム信号が再び出力されるまでLEDは点灯しません。

SPOT/PRESETボタン

SPOT/PRESETボタンを押して個々のカメラボタンを押すと、サブモニターに選択したカメラの映像が表示されます。スポットモニターをシーケンス表示するにはSPOT/PRESETボタンを押した後、SEQUENCE/WIDEボタンを押してください。PTZモードで設定を保存します。

MENU/VIEWボタン

MENU/VIEWボタンを押すと“簡易設定”画面に移行します。“簡易設定”にアクセスするには管理者用パスワードが必要となります。このボタンは現在のメニューまたはセットアップダイアログボックスを閉じるのにも使います。PTZモードではプリセット画面を記憶します。

SEARCH/STOP ボタン

SEARCH/STOP ボタンを押すと検索メニューが表示されます。再度ボタンを押すと検索メニューを終了します。この操作はユーザーパスワードで保護されます。再生モード中に SEARCH/STOPボタンを押すとライブモニタリングモードに戻ります。

RW（巻き戻し）ボタン

RWボタンを押すと高速で映像を巻き戻します。ボタンを再度押すと巻き戻しスピードを◀◀から◀◀◀、◀◀◀◀に切り替えます。画面には◀◀、◀◀◀、◀◀◀◀がそれぞれ表示されます。

ライブ監視モードから高速巻き戻しモードへの移行はパスワードで保護されます。

PREV(プレビアス）ボタン

PREVボタンは再生映像が一時停止の状態の時にのみ機能します。PREVボタンを押すごとに映像を１コマ、逆再生方向にコマ送りします。

PLAY/PAUSEボタン

PLAY/PAUSEボタンを押すと通常スピードで映像を再生します。再生モード中にボタンを押すと映像を一時停止します。映像を再生中は画面に▶が表示されます。
一時停止中は画面に ‖ が表示されます。

ライブ監視モードから再生モードへの移行はユーザーパスワードで保護されます。

NEXTボタン

NEXTボタンは再生映像が一時停止の状態の時にのみ機能します。NEXTボタンを押すごとに映像を１コマ、再生方向にコマ送りします。

FF(早送り)ボタン

FFボタンを押すと映像を早送りします。再度ボタンを押すと再生スピードを▶▶から▶▶▶、▶▶▶▶に切り替えます。画面には▶▶、▶▶▶、▶▶▶▶がそれぞれ表示されます。

ライブ監視モードから早送りモードへの移行はパスワードで保護されます。

PANIC ボタン

PANICボタンを押すと全カメラチャンネルで緊急記録を開始し、画面上には❗画表示されます。再度ボタンを押すと緊急記録を終了します。 この操作は使用者パスワードで保護されます。

ENTERボタン

↵(Enter) ボタンは反転している項目を選択したり、設定中の入力を決定します。ライブモニタリングや再生中にカメオ実行モードへ移行したり、カメオ実行モードを終了するのにも用います。

上、下、左、右矢印ボタン

メニューおよびGUI（グラフィカルユーザーインターフェイスメニュー）を操作するのに使用します。PTZモードではパン・チルト操作にも使用し、カメオ実行画面の位置の移動および画面ページの移動にも用いられます。

電源を入れる

本機の電源を入れるには電源コードを接続して下さい。起動には約６０秒かかります。

初期設定

初めて本機をご使用になる前に、初期設定を行なって下さい。これらの設定には日付・時刻、表示言語、カメラ、音声、遠隔操作、記録モード、ネットワークおよびパスワードが含まれ、さまざまな画面やダイアログボックスを使って設定が行なえます。

MENUボタンを押して設定画面に移行して下さい。“管理者パスワード”画面が現れます

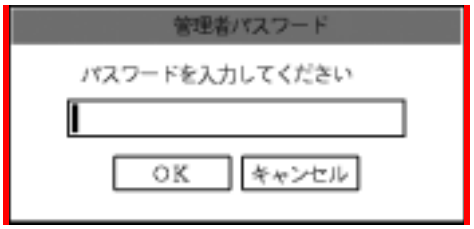


イラスト18　管理者パスワード画面

カメラ番号ボタンを押してパスワードを入力し、↵ボタンを押して下さい。工場出荷時の設定は4321です。設定画面には簡易設定と通常設定の２種類があり、工場出荷時の設定は簡易設定画面になっております。

注) 使用者パスワードがオンになっている場合はパスワードを入力することにより設定画面に入ることができます。ただし、クリップコピーおよびパスワード設定画面のみ許可されます。

簡易設定画面

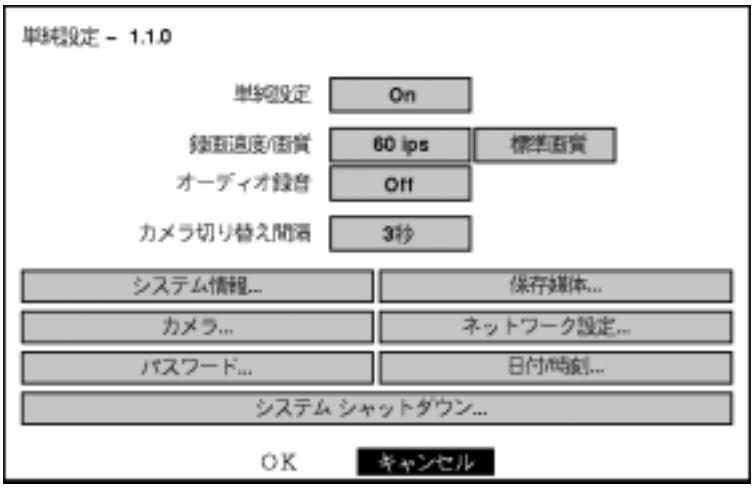


イラスト19　単純設定画面

簡易設定画面では本機において最も頻繁に使われる機能を設定することができます。
矢印ボタンを使って項目を移動して下さい。↵ボタンを押すと選択した項目を決定することができます。（選択した項目は反転表示されます）

注) 使用者パスワードを入力することにより簡易設定画面へ移行します。パスワード設定のみ許可されます。

簡易設定の項目を選択し、↵ボタンを押してOnとOffを切り替えて下さい。
Offを選択すると通常設定画面を使って本機の設定を変更することができます。

録画速度の項目を選択し、録画速度を0.1 ipsから60ipsの中から選択して下さい。

注) カメラ1台の最大記録スピードは60ipsです。ただし、複数のカメラをつないだ場合は60ipsにはなりません。

画質の項目を選択し、最高、高、標準、低より画質を選択して下さい。

音声記録の項目を選択し、↵ボタンを押してOnまたはOffのいずれかを選択して下さい。

注) 「法律や条例で音声記録が許可されているか」についての判断は使用者の責に帰すこととなります。

“ カメラ切り替え間隔 ”の項目を選択し、左右矢印ボタンを使ってカメラの映像の切替間隔時間を３～６０秒の間で選択して下さい。

システム情報... システム情報の画面に移行します。

保存媒体... 保存媒体の状態をチェックする画面に移行します。

カメラ... カメラ情報を設定できる画面に移行します。

ネットワーク設定... ネットワーク情報設定画面に移行します。

パスワード... パスワード変更画面に移行します。

日付／時刻... 日付および時刻の設定画面に移行します。

システムシャットダウン... 本機の電源を切ります。本機の電源を切る際、本当に電源を切るかを確認するため管理者パスワードの入力を求められます。

注) ユーザーがスマートビュープログラムを使って遠隔地からDVRの設定を変更すると簡易設定は自動的に解除されます。

通常設定画面

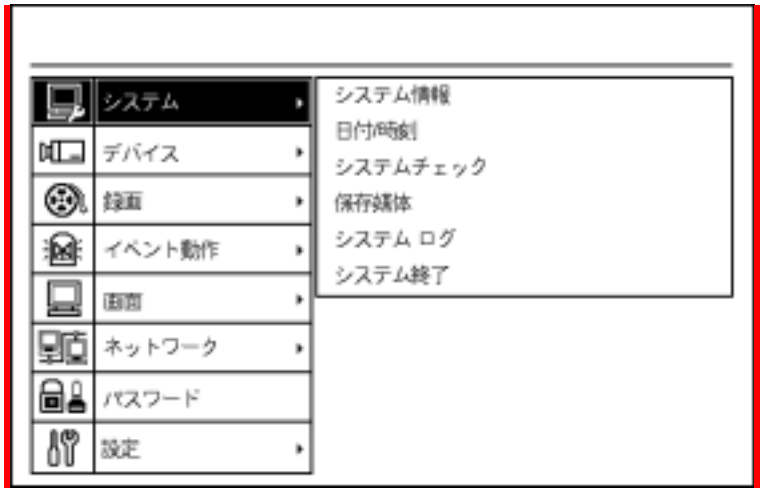


イラスト20　通常設定画面

MENUボタンを押して設定画面に移行して下さい。簡易設定画面が表示された時は簡易設定をOffにして下さい。通常設定画面では全ての設定画面にアクセスすることができます。

システム情報

システム情報の項目を選択し、↵ボタンを押して下さい。システム情報が画面に表示されます。

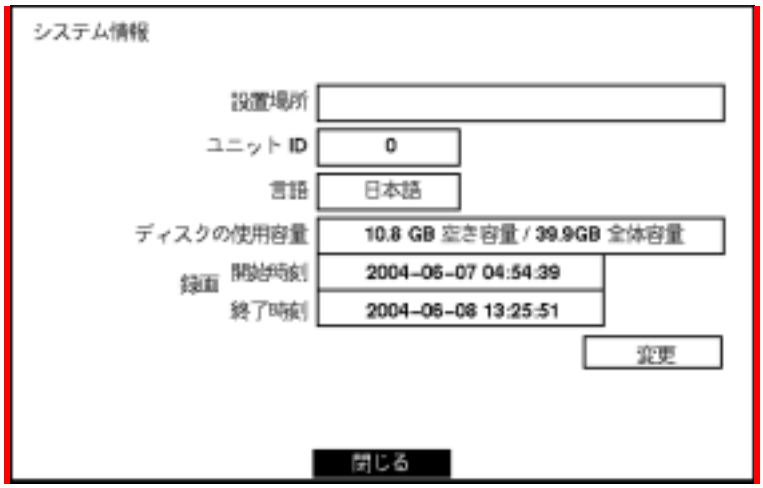


イラスト21　システム情報画面

システム情報画面において、設置場所の名前をつけ、ID番号を割り当てて、画面に表示される言語を選択してファームウェアをアップグレードすることができます。“ 変更 ”を選択し↵ボタン↵を押して下さい。システム情報変更画面が表示されます。

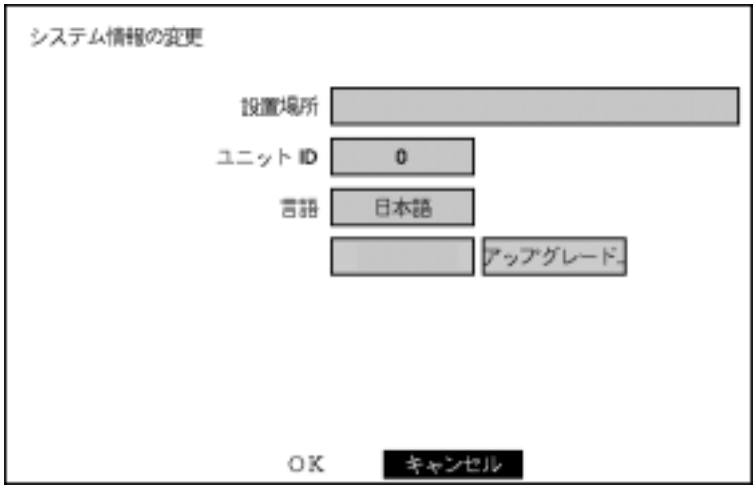


イラスト22　システム情報変更画面

“ ユニットID ”の項目を選択し、ボタンを押して下さい。数字が反転している状態で上下矢印ボタンを押して数字を増減させて変更して下さい。ユニットIDナンバーは他のデジタルビデオレコーダーと共にネットワーク運用する際、識別のために用います。
同一ネットワーク内において２台以上のデジタルビデオレコーダーに同じIDナンバーを用いることはできません。

“ 言語 ”の項目を選択し、ボタンを押して下さい。ドロップダウンメニューにより使用できる言語が表示されます。ご希望の言語を選択し、ボタンを押して下さい。

“ 設置場所 ”の項目を選択し、ボタンを押して下さい。画面上にキーボードが表示されます。

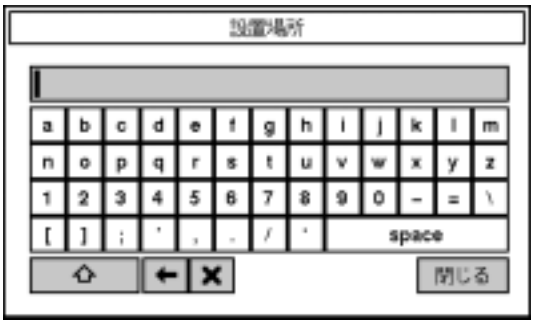


イラスト23　キーボード

矢印ボタンを使って場所のタイトルにしたい最初の一文字を選択し、ボタンを押して下さい。文字がタイトルバーに表示され、カーソルが次の位置に移動します。 ボタンを押すと大文字と小文字を切り替えます。 は１文字戻り は入力した文字を削除します。タイトルはスペースを含み最大２０文字まで入力することができます。

タイトルを入力したら、“ 閉じる ”を選択し、ボタンを押して下さい。

Versionの横の項目は 本機のソフトムウェアのバージョンを表示しています。

注）ソフトウェアのアップグレードができるのはシステム情報変更画面においてのみです。

ソフトウェアをアップグレードするにはアップグレードファイルの入ったUSB機器を本機に接続して下さい。次にアップグレード を選択し、タンを押して下さい。 システムアップグレード画面が現れ、画面にはアップグレードファイルのファイル名が表示されます。

警告）他のUSBポートに機器が接続されていると、アップグレードが正しく行なわれない可能性があります。アップグレードを行なう前にUSB機器を取り外して下さい。

注）USB-IDEハードディスクまたはUSBフラッシュメモリがFAT16またはFAT32形式でない場合は、FAT16またはFAT32形式を用いてハードディスクをフォーマットして下さい。

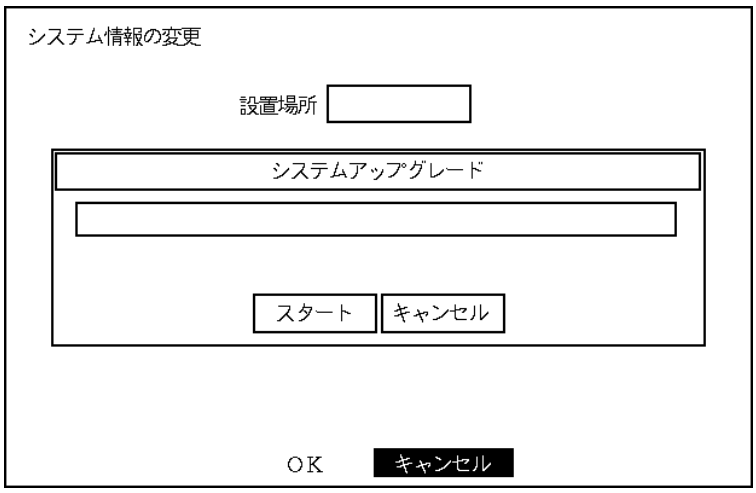


イラスト24　システムアップグレード画面

“ スタート ”を選択し、管理者パスワードを入力してアップグレードを開始して下さい。アップグレードが完了すると自動的に再起動します。

注）ソフトウェアをアップグレードできるのはシステム管理者のみです。

注）クリップコピー中はソフトウェアのアップグレードができません。

日付／時刻設定

メインメニューの中で日付／時刻を選択し、Enterボタンを押して下さい。日付／時刻設定画面が表示されます。

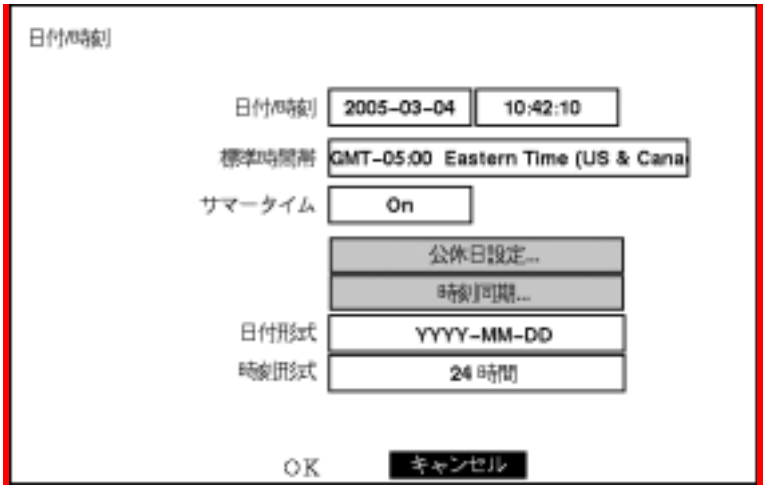


イラスト25　日付／時刻設定画面

警告）記録した映像より以前の日付と時刻を設定すると、新しく設定した日付と時刻より後の日付・時刻の映像は削除されます。

日付/時刻の左側の項目を選択し、↵ボタンを押して下さい。日付の月・日・年は個々に反転します。上下矢印ボタンを使って数字を変更して下さい。左右矢印ボタンを使って月・日・年を移動します。正しい日付を設定したら↵ボタンを押して下さい。

日付/時刻右側の項目の選択し、↵ボタンを押して下さい。時刻の時・分・秒は個々に反転します。上下矢印ボタンを使って数字を変更して下さい。左右矢印ボタンを使って時・分・秒を移動します。正しい時刻を設定したら↵ボタンを押して下さい。

注）本機を再始動するまで時計は動きはじめません。時刻は最後に設定することをおすすめします。

“ 標準時間帯 ”の項目を選択し、↵ボタンを押して下さい。一覧より本機をお使いの場所の時間帯を選択し、↵ボタンを押して下さい。

“ サマータイム ”の項目を選択し、↵ボタンを押して下さい。↵ボタンを押してOnとOffを切り替えます。

“ 公休日設定... ”の項目を選択し、↵ボタンを押して下さい。“ 追加 ”を選択することにより公休日を設定することができます。↵ボタンを押して下さい。現在の日付が表示されます。

月・日を選択し、上下矢印ボタンを使って変更して下さい。↵ボタンを押して日付を追加して下さい。日付の横の×を選択して↵ボタンを押すと日付が削除されます。

注）年によって日が変わる休日については、その年の休日が過ぎたら設定を更新して下さい。

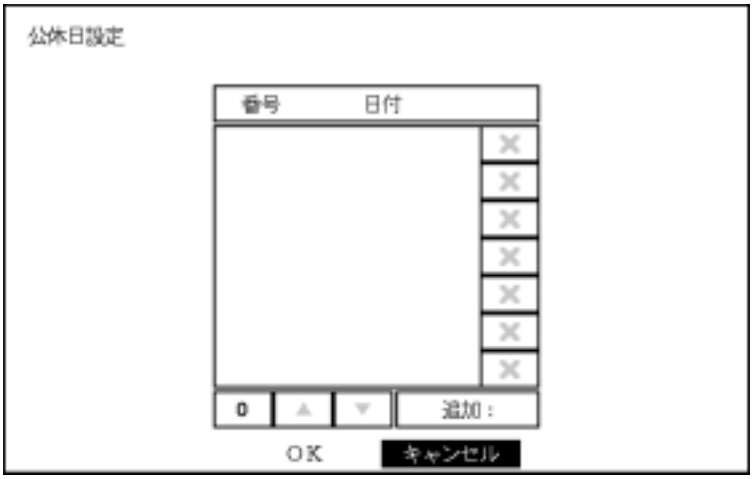


イラスト26　公休日設定画面

OKを選択し、ボタンを押すと変更が保存されます。キャンセルを選択すると変更を保存せずに画面を終了します。

“ 時刻同期… ”の項目を選択し、ボタンを押して下さい。ほとんどの時間ゾーンおよび国またはDVRと他のDVRの間で時間の同期を設定できます。

自動時間同期の項目を選択し、ボタンを押して下さい。本機とほとんどの時間ゾーンや国で利用できる時刻同期サーバ間または本機と他のDVRで時刻同期を設定できます。

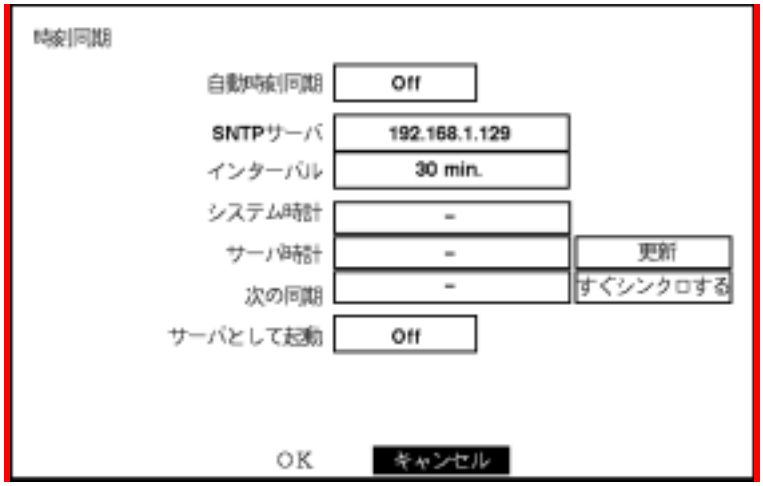


イラスト27　時刻同期

自動時刻同期の項目を選択し、ボタンで On と Offを切り替えて下さい。

SNTP サーバの項目を選択し、ボタンを押して下さい。数値を反転させ、上下矢印ボタンを使って数値を変更して下さい。

インターバルの項目を選択し、ボタンを押して下さい。.同期のための時間間隔を1～300分の間で設定して下さい。
システム時計の項目に本機の設定が表示されます。

サーバ時計の項目には時間サーバの設定が表示されます。サーバ時計を更新するには更新の項目を選択し、ボタンを押して下さい。

注）時間サーバから情報を読み込めない時はサーバ時計の表示は“ － ”になります。

次の同期の項目には次の同期が予定されている時刻が表示されます。すぐに時間を同期したい時は、“ すぐ同期する ”を選択し、ボタンを押して下さい。

警告：“ すぐ同期する ”を選択した場合、時間サーバの日付・時刻が最後に記録された映像の日付･時刻よりも早いと、その日付･時刻よりも後の時間に記録されていた映像は失われます。

注）DVRと時間サーバの差が1分未満の時、予期しない記録データの消失を防ぐため、同期を行なわないことがあります。手動で同期を行ないたい時は“すぐ同期する”を選択してください。

“ サーバとして起動 ”の項目を選択し、↵ボタンを押してOn と Offを切り替えて下さい。 ONに設定すると、本機は時間サーバとして設定されます。

OKを選択して↵ボタンを押すと変更が保存されます。“ キャンセル ”を選択すると変更を保存せずに画面を終了します。

“ 日付形式 ”の項目を選択し、↵ボタンを押して下さい。日付形式の一覧が表示されます。お使いになりたい表示形式を選択し↵ボタンを押して下さい。表示形式は下記から選ぶことができます。

MM-DD-YYYY（月月－日日－年年年年）
DD-MM-YYYY（日日－月月－年年年年）
YYYY-MM-DD（年年年年－月月－日日日日）
MM/DD/YY（月月／日日／年年年年）
DD/MM/YYYY（日日／月月／年年年年）
YYYY/MM/DDDD（年年／月月／日日）

時刻表示形式変更するには“ 時刻形式 ”の項目を選択し、↵ボタンを押して下さい。
１２時間形式（AM/PM）と２４時間形式で切り替えられます。

OKを選択して↵ボタンを押すと変更が保存されます。キャンセル選択すると変更を保存しないで画面を終了します。

システムチェック画面

メインメニューの中でシステムチェックの項目を選択し、↵ボタンを押して下さい。
システムチェック設定画面が表示されます。

イラスト28　システムチェック画面

On/Offの見出し下の項目を選択し、ボタンを押して、OnとOffを切り替えます。
Onの時、もし全く記録を検出しない場合または指定された時間中にアラームがあった場合本機はフォールト条件を報告します。

チェック間隔の見出し下の項目を選択し、ボタンを押して下さい。スライドバーが表示され左右矢印ボタンを使って１時間から３０日の間でチェック間隔を設定することができます。

状態区分には異常条件を表示します。“ 良好 ” の時は、指定された時間中に記録が行なわれていたか、アラームが発生したことを表わします。“ 不良 ” の時は指定された時間中に記録が行なわれなかったかまたはアラームが発生しなかったことを表わします。

保存媒体画面

メインメニューの中で保存媒体を選択し、ボタンを押して下さい。保存媒体設定画面が表示されます。インストールされているIDEハードディスクがS.M.A.R.T（自己監視分析報告技術）監視プログラムをサポートしている場合、本機は保存媒体の状態を表示します。

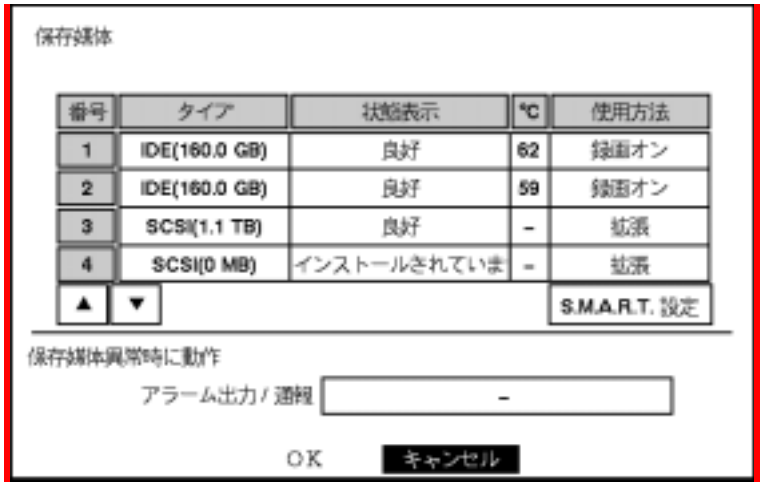


イラスト29　保存媒体画面

注）５台以上の保存媒体が設置されている時はリストの下の上下矢印ボタンを選択してリストをスクロールすることにより確認できます。

タイプ区分には保存媒体のタイプおよび記憶容量が表示されています。状態表示区分には保存媒体の状態に応じて、“良好”、“不良”、“S.M.A.R.T. Inop” 、“S.M.A.R.T.警告”、“高温”、“未インストール”のいずれかが表示されます。

- 良好— 保存媒体の状態は良好です。
- Bad — 保存媒体にデータが書き込めないか、データを読み取れません。
- S.M.A.R.T.Inop— 保存媒体の状態は正常ですが、S.M.A.R.T.は働いていないかサポートされていません。
- S.M.A.R.T. Alert — S.M.A.R.T. 監視が 異常状態を検出しました。
- 高温 — S.M.A.R.T. 監視が、保存媒体の温度がプリセットの温度しきい値を越えたことを検出しました。
- 未インストール— 保存媒体がインストールされていません。

注）いったん“S.M.A.R.T. 警告”メッセージが表示された場合は、24時間以内にハードディスクを交換されることをお薦めします。

°C区分には保存媒体の温度が表示されます。

“ 使用方法 ” 区分には保存媒体の使用法が表示されます。

注）IDEハードディスクでは、“録画オン”か“録画オフ”のいずれかに使用法を切り替えることができます。SCSIハードディスクでは“拡張”か“アーカイブ”のいずれかの使用法に切り替えることができます。

警告）以前にどこかで使用したハードディスクを接続すると、表示が“ー”になります。このような状態の時には保存媒体の使用方法はご希望の使用方法に変更できます。（例：拡張からアーカイブまたはアーカイブから拡張など）ただし、保存媒体の使用方法が変更されると、既存のデータは失われます。

内部ブザー、外部アラームを作動させるおよび（または）遠隔地へ通知ことで保存媒体の異常に反応させるよう設定できます。“ 保存媒体異常時に動作 ” の項目（アラーム出力／通報）を選択し、ボタンを押してビープ音、保存媒体異常と関連づけるアラーム出力端子およびまたは通報を選択してください。

S.M.A.R.T. 設定を選択し、ボタンを押して下さい。S.M.A.R.T. 設定画面が表示されます。

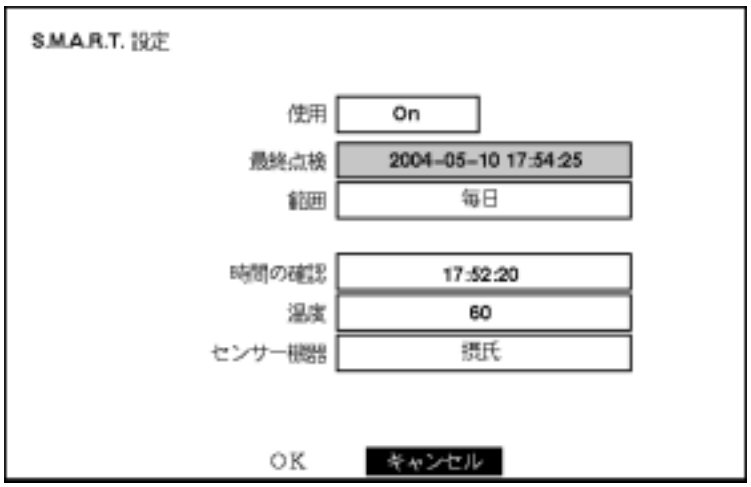


イラスト30　S.M.A.R.T. 設定画面

インストールされているIDEハードディスクが、S.M.A.R.T.監視プログラムをサポートしていれば、ハードディスの状態が確認できます。“ 使用 ”の項目を選択し、↵ボタンを押してONとOffを切り替えて下さい。

最終点検区分には最後に保存媒体をチェックした日付・時刻情報が表示されます。

“ 範囲 ”の項目を選択し、“ 毎日 ”、“ 週 ”、“ 月 ”からチェック間隔を選択して下さい。

注）“ 週 ”または“ 月 ”を選択すると、範囲区分には曜日、月間の日にちがそれぞれ表示されます。曜日または日にちを選択して下さい。

“ 時間の確認 ”の項目を選択し、矢印ボタンを使って値を調整して下さい。

“ 温度 ”の項目を選択し、矢印ボタンを使って値を調整して下さい。ハードディスクメーカーの仕様に合わせて温度を設定して下さい。温度がしきい値を越えると、S.M.A.R.T. 警告メッセージが表示されます。

“ センサー機器 ”の項目選択し、摂氏または華氏を選択して下さい。

“ OK ”を選択し、↵ボタンを押すと変更を保存できます。“ キャンセル ”を選択すると、変更を保存しないで画面を終了します。

システムログ（履歴）画面

メインメニューの中で“ システムログ ”を選択し、↵ボタンを押して下さい。
システムログ画面が表示されます。

イラスト31　システムログ画面

システムログ画面は、本機に履歴として残されたさまざまなイベントの記録を表示します。一覧にはシステム電源のOn／Off、電源遮断、記録の開始および停止、再生の開始および停止、設定の変更、データの消去が行われた日付・時刻が表示されます。

イベントは最新のものから順に表示されます。上下矢印ボタンを選択し、↵ボタンを押すことで１ページ分のリストをスクロールできます。

直接イベント番号を指定するには、まず左右矢印ボタンを使ってイベント番号の項目を選択して、↵ボタンを押して下さい。上下矢印ボタンを使って値を変更し↵ボタンを押すことで、直接そのイベント番号に行くことができます。

システム終了

メインメニューの中で“ システム終了 ”の項目を選択し、↵ボタンを押して下さい。
システムが終了します。終了する時は“ システムを終了しますか？ ”というメッセージが表示され、“ Yes ”を選択した後、管理者パスワードを入力する必要があります。

接続する機器の設定

本機に接続された映像、音声および遠隔操作用の機器を設定することができます。

イラスト32　機器メニュー画面

カメラ設定画面

メインメニューの中でカメラの項目を選択し、↵ボタンを押して下さい。カメラ設定画面が表示されます。

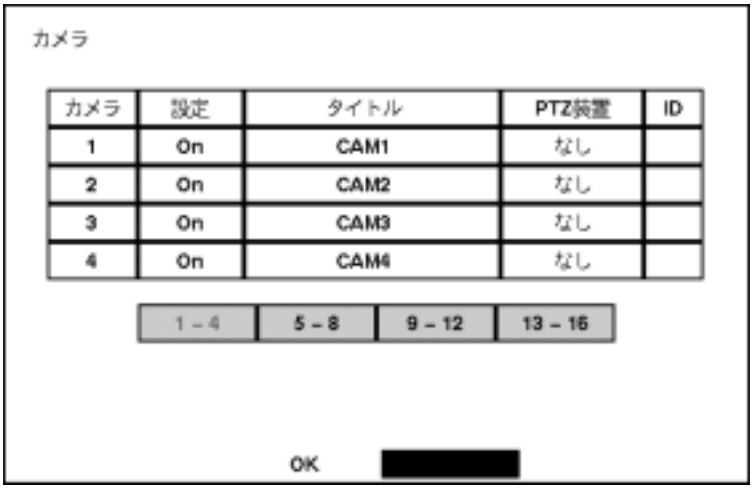


イラスト33　カメラ設定画面

カメラ設定画面は4つのカメラ入力グループ別（1-4、5-8、9-12、13-16）で表示されます。カメラ入力はOn/Offでき、カメラ設定の見出しを選択して、↵を押すことによりカメラ番号の映像 を非表示にできます。ドロップダウンリストから“ On ”、“ Off ”、“ 非表示1 ”、“ 非表示2 ”を選択して下さい。

注）“ 非表示1 ”を選択すると、非表示の映像上にカメラタイトルと状態アイコンが表示されます。“ 非表示２ ”を選択すると、非表示の映像上にカメラタイトルのみが表示されます。

タイトルの見出しを選択し、↵ボタンを押してカメラごとにタイトルをつけることができます。仮想キーボードを使ってカメラの名称を入力して下さい。

PTZ装置の項目を選択するとコントロールできるカメラのリストが表示されます。リストから接続するカメラを選択し、↵ボタンを押して下さい。接続するカメラの取扱説明書にしたがい、本機背面のRS485にカメラを接続して下さい。

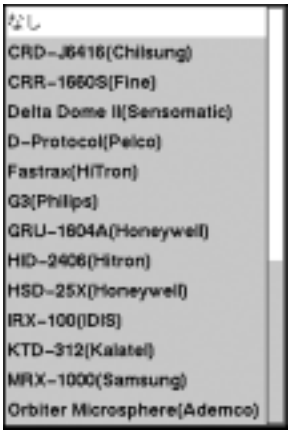


イラスト34　PTZ機器リスト

IDの見出しを選択し、↵ボタンを押して各カメラにIDを割り当てることができます。数字を選択し、上下矢印ボタンを使って値を増減して下さい。PTZのID番号は0～256の間で設定できます。

アラーム入力設定画面

メインメニューの中でアラーム入力の項目を選択し、↵ボタンを押して下さい。アラーム入力画面が表示されます。

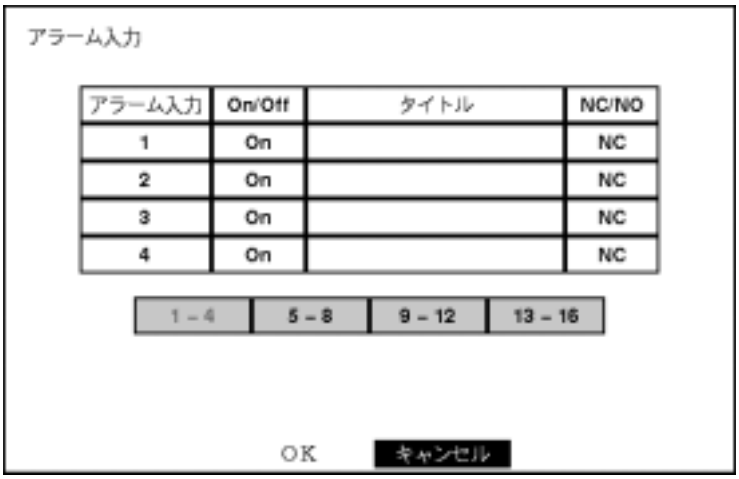


イラスト35　アラーム入力設定画面

本機背面のアラーム端子ストリップには各アラームと接続する入力があります。アラーム入力設定画面でそれぞれの入力の設定ができます。入力は４つずつ表示されます。
それぞれの入力をOnまたはOffにすることができ、またタイトルをつけることができます。
またアラーム入力はそれぞれNO接点、またはNC接点に設定することができます。

モーション検知

イラスト36　モーション検知設定画面

本機には映像の動作検知器が内蔵されています。動作検知器はそれぞれのカメラについてOnまたはOffにすることができます。

“感度”の見出し下の項目を選択すると動作に対する検知の感度を変更できます。最低感度１から最高感度５の５段階の設定があります。

動作アラームを引き金に動作状態となる検知ブロックの最小数を調整することができます。“最小反応個数”の見出し下の項目を選択し、数字を変更して下さい。数字が小さくなるほど動作する検知ブロックの数が少なくなり、より高感度となります。

“プレビュー”設定をOnにすると本機が画面内の動きに対してどのように反応するか確認することができます。動作確認モードでは映像の検知領域が緑色で表示されます。領域内で検知された画面内の動きは赤色で表示されます。

画面内の動きを検知したいエリア（例えば入り口のドアなど）を定めることができます。“領域”見出しの下のアイコンを選択し、ボタンを押して下さい。モーション検知領域画面が表示されます。

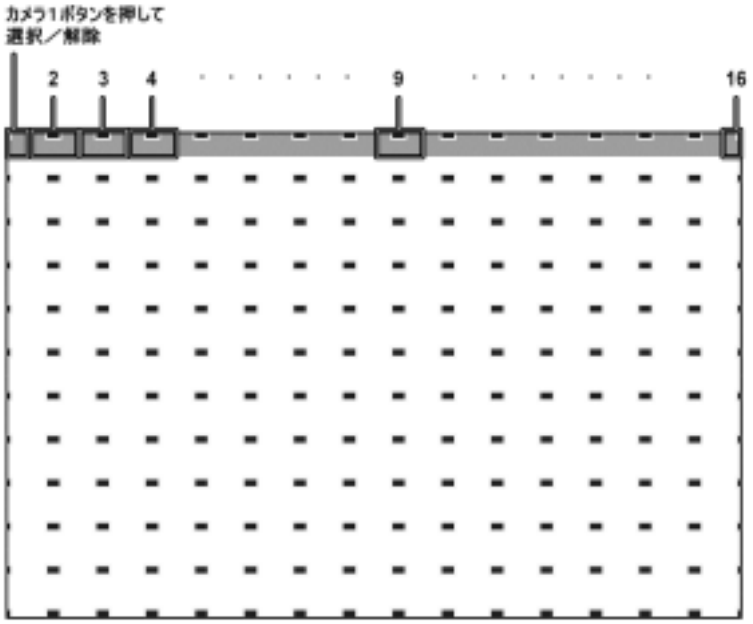


イラスト37　動作検知領域画面

動作検知領域画面は選択したカメラの映像上に表示されます。ブロックを選択または消去することにより、動作検知領域を設定できます。

注）9個または16個の個々のブロックグループにおいて、一度に一ブロックずつ設定できます。ブロックグループは上下矢印ボタンを使って画面エリア内で位置決めができ、ブロックグループ内の個々のブロックはカメラボタンを使って選択または消去されます。

メニュー画面を表示するには↵ボタンを押して下さい。設定画面上のメニューには 以下のような機能があります。

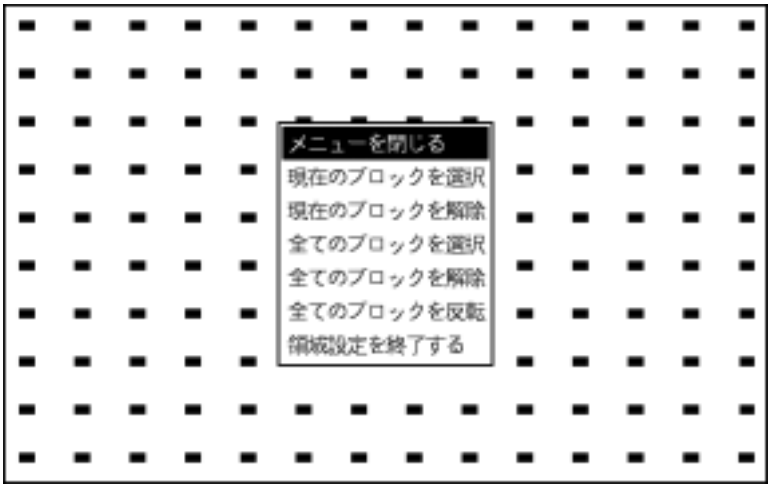


イラスト38　動作検知領域メニュー画面

メニューを閉じる－画面全体を見るためメニューを閉じます。

現在のブロックを選択－動作を検知するよう選択されたブロックを有効にします。

現在のブロックを解除－動作を検知しないよう選択されたブロックを無効にします。

全てのブロックを選択－動作を検知するよう全てのブロックを有効にします。

全てのブロックを解除－動作を検知しないよう全てのブロックを無効にします。

全てのブロックを反転－無効になっているブロックを有効にし、有効になっているブロックを無効にします。

領域設定を終了する－変更の確認を求められたのち、前の画面に戻ります。

アラーム出力設定画面

アラーム出力設定画面では本機からの各アラーム出力ためのスケジュールを確立することができます。

イラスト39　アラーム出力設定画面

各アラーム出力はタイトル見出しの下の項目を選択し、ボタンを押してそれぞれにタイトルをつけることができます。画面に表示されるキーボードを使って、タイトルを入力して下さい。

“ 日程 ” 区分を選択し、ボタンを押すとスケジュール画面が表示されます。0：00～24：00の間で30分単位にアラーム出力のスケジュールを設定することができます。

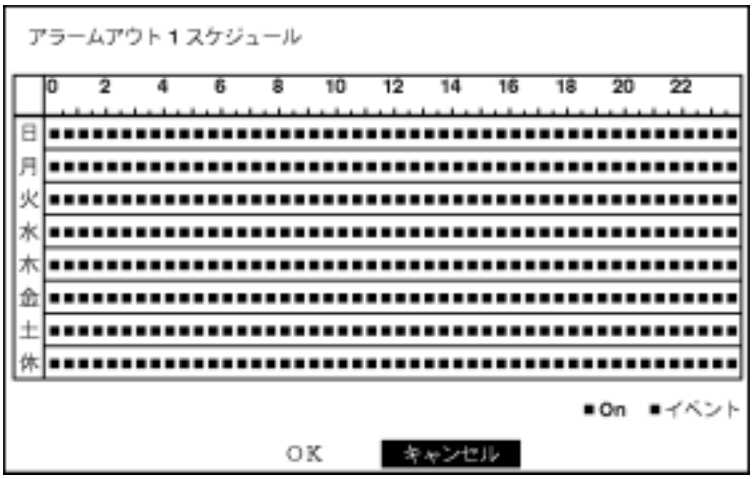


イラスト40　アラーム出力スケジュール画面

各時間帯、一日中、決まった時間帯、あるいは全てのスケジュールを選択できます。

- 画面上のブロックを反転させることにより、指定する時間を選択します。
- 画面の左で曜日（日、月、火、水、木、金、土）または休日（休）を反転させることにより、指定する日を選択します。
- 画面上の時間を反転させることにより、指定する時間帯を選択します。
- 画面左上角の四角の部分を反転させることにより、画面全体を選択します。

解除（ブロックの無い状態）からOn（青いブロック）、イベント（黄色いブロック）へそれぞれ切り替えるには↵ボタンを押して下さい。

Onに設定すると予定された時間の間アラーム出力が有効になります。イベントに設定すると予定された時間の間にイベントがあるときのみアラーム出力が有効になります。

音声設定画面

メインメニューの中で音声を選択し、↵ボタンを押して下さい。音声設定画面が表示されます。

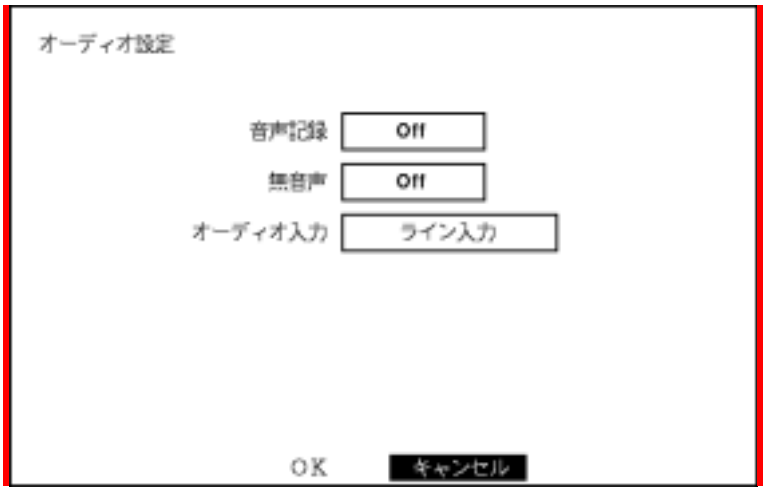


イラスト41　音声設定画面

音声記録の項目を選択し、↵ボタンを押すとOnとOffを切り替えます。Onに設定すると映像を記録する際、音声を同時に記録します。

無音声の項目を選択し、↵ボタンを押すとOnとOffを切り替えます。Onに設定するとライブまたは記録された音声を再生しません。

音声入力を選択し、↵ボタンを押すとマイク入力とライン入力を切り替えます。マイク入力は増幅されていない音源用、ライン入力は増幅された音源用です。

OKを選択し、↵ボタンを押すと変更を保存できます。“ キャンセル ”を選択すると変更を保存せずに画面を終了します。

注）記録スピードを1ips未満に設定した場合、標準品質の音声再生は保証されません。

RS232／RS485設定画面

RS232／RS485設定画面ではモデム、リモコン、ドームカメラといった外部機器と通信を行なうためのRS232およびRS485ポートの設定ができます。

イラスト42　RS232／RS485設定画面

設定を行なう区分を選択して下さい。本機に接続されている外部機器に合った“ ボーレート ”、“ パリティ ”、“ データ(ビット) ”および“ ストップ（ビット） ”を選択して下さい。

RS232の“ 使用方法 ”区分では“ 遠隔コントロール ”または“ 外部モデム ”のいずれかを選択することが可能であり、RS485の“ 使用方法 ”区分では“ 遠隔コントロール ”または“ PTZコントロール ”のいずれかを選択することが可能です。

注）RS232およびRS485ポートは同時にリモコンを使って設定を行なうことができません。

注）外部モデムによりネットワーク設定を行なった場合、RS232ポートはリモコン用に設定することができません。ネットワーク設定メニュー内ではじめにLAN接続のための設定を行なって下さい。

記録の環境設定

本機では多彩なモードで記録することができます。常時記録またはイベントのみの記録を設定することができます。ハードディスクドライブの容量が一杯になると上書きを行なう連続記録またはハードディスクの容量が一杯になり、記録を停止すると知らせる設定を行なうことができます。

録画モード設定画面

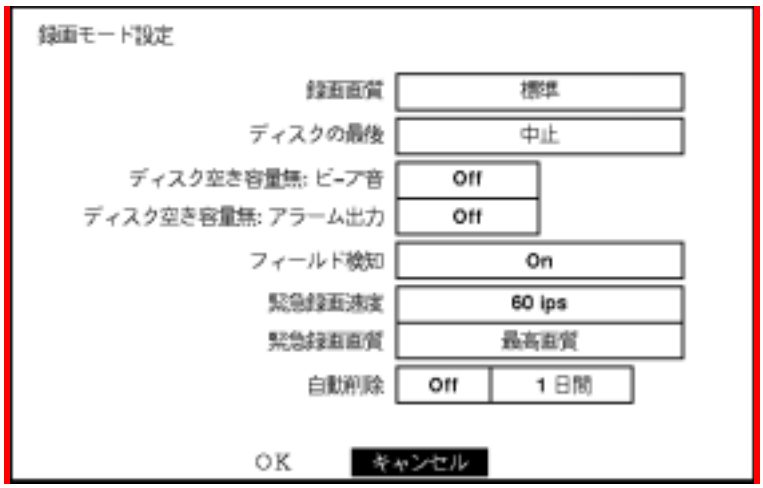


イラスト43　記録モード設定画面

録画画質の項目を選択し、“ 高 ”と“ 標準 ”から選択して下さい。“ 高 ”を選択すると記録および再生スピードが“ 標準 ”の半分になります。

“ ディスク終了 ”の項目を選択し、↵ボタンを押して“ 上書 ”、“ 停止 ”を切り替えて下さい。上書モードに設定された場合、ハードディスクの容量が一杯になると、 古い映像に上書きして記録を続けます。“ 停止 ”に設定された場合、ハードディスクの容量が一杯になると記録を停止します。

“ 停止 ”モードに設定されている時は、ハードディスクの容量が一杯になると警告音を出すかアラーム出力 AO1から信号を出すよう設定することができます。“ ディスク空き容量無し時 ”のビープ音の項目を選択し、↵ボタンを押してOnまたはOffを切り替えて下さい。同じ要領で“ アラーム ”の項目を選択し、OnまたはOffを切り替えて下さい。

フィールド検知の項目を選択し、↵ボタンを押してOnとOffを切り替えて下さい。“ On ”に設定されていると、映像のブレを防ぐのを助けます。これは奇数番号のカメラから奇数のフィールドを記録し、偶数の番号のカメラから偶数のフィールドを記録することによるものです。

緊急録画の項目を選択し、↵ボタンを押して下さい。緊急録画スピードのドロップダウンリストが表示され、0.1 ipsから60ipsの中から選択できます。

注）“ 録画画質 ”を“ 高 ”に設定した場合は、60ipsを選択することができません。

“ 緊急録画画質 ”の項目を選択し、↵ボタンを押すとドロップダウンリストが表示されます。緊急録画モード時に記録される録画画質を“ 最高画質 ”、“ 高画質 ”、“ 標準画質 ”、“ 低画質 ”から選択できます。

“ 自動削除 ”のすぐ横の項目を選択し、↵ボタンを押して、OnとOffを切り替えて下さい。“ On ”に設定されていると、ユーザーが定義した期間よりも前に記録された映像を削除します。“ 自動削除 ”の項目の右側のボックスを選択し、↵ボタンを押すと1～99日の間で保持する記録データの長さを選択することができます。

OKを選択し、↵ボタンを押すと変更が保存されます。キャンセルを選択すると変更を保存せずに画面を終了します。

タイムラプス録画モード設定画面

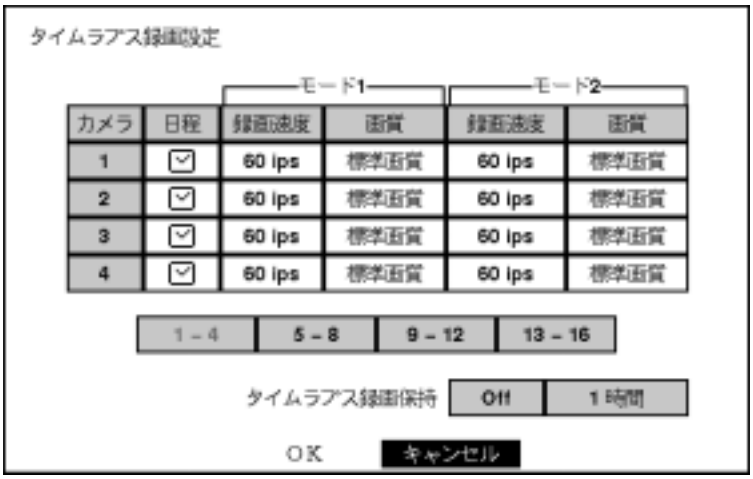


イラスト44　タイムラプス記録設定画面

録画速度の見出し下の項目を選択し、↵ボタンを押すと、録画速度のドロップダウンリストが表示されます。0.1ips～60ipsの間から選択することができます。

注）録画画質を“ 高 ”に設定した場合、60ipsに設定することはできません。

画質の見出し下の項目を選択し、↵ボタンを押すとドロップダウンリストが表示されます。画質を“ 最高画質 ”、“ 高画質 ”、“ 標準画質 ”、“ 低画質 ”から選択できます。最高画質は標準画質の600%、高画質は250%、低画質は70%のハードディスクの空き容量を必要とします。

注）より高画質の映像はより多くの容量を必要とするため、ハードディスクドライブの記憶容量は少なくなります。

保存できるタイムラプス映像の最大量を設定できます。DVRがその量に達すると、古いタイムラプス映像から上書きを開始します。タイムラプス映像はイベント映像とは別に保存されます。タイムラプス録画保持を“ On ”に設定すると、1時間～ハードディスクの保存容量の許容範囲内で設定することができます。

注）映像を保存するのに必要な容量は動作と映像の状況のような多くの要因で異なるため、最大記憶時間はおおよそのものとなります。

タイムラプス録画スケジュール

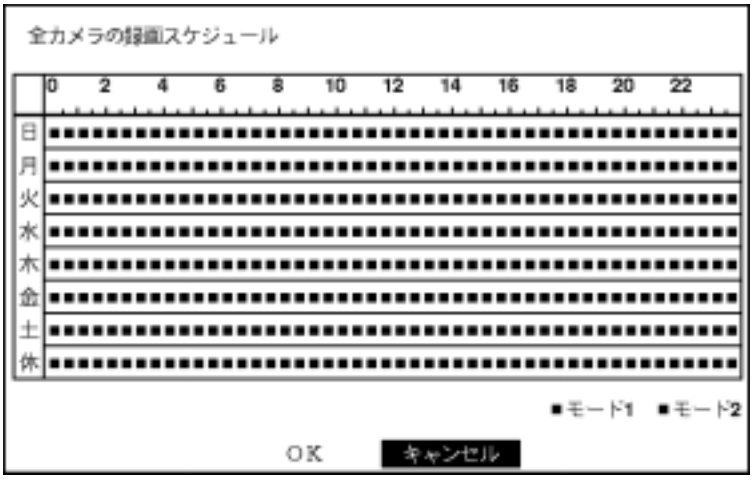


イラスト45　タイムラプス記録スケジュール画面

本機は時間、日、週、休日に基づいて、ある一定の時間のみ記録のためにプログラムすることができます。設定できる最短時間は３０分です。青い長方形１つでその間の３０分が記録するよう設定されていることを表わします。長方形がない場合、その間の３０分は記録されません。

記録時間を設定するには数種類の方法があります。

- 個々のブロックを選択し、↵ボタンを押してOnとOffを切り替えます。
- タイムライン上にカーソルを持っていき、↵ボタンを押してOnとOffを切り替えて
- 全日程を３０分単位で設定することができます。
- 特定週の特定の１日にカーソルを持っていき、↵ボタンを押してOnとOffを切り替えて１日全てを変更することができます。
- 左上部のスペース（“ 日 ”の上、タイムラインの左）に持っていき、↵ボタンを押してカレンダー全体を変更することができます。

注）休日（休）スケジュールは日付・時刻を設定した際に休日と設定した日に適用されます。

OKを選択して↵ボタンを押すと変更が保存されます。キャンセルを選択すると変更を保存せずに終了します。

プリイベント録画設定画面

イラスト46　プリイベント録画設定画面

イベント録画モードの時は、イベントが発生する以前の映像を記録することが可能です。
プリイベント録画画面ではプリイベント録画の設定を定義づけることができます。

それぞれのカメラについてプリイベント録画をする・しないを設定できます。映像スピードは0.1から60ipsで、画質は高画質、標準画質、低画質から選択できます。

期間の項目を調整することにより、イベントが発生する以前にさかのぼって記録する時間の長さ1～300秒の間で設定できます。

注) タイムラプスモードの時はプリイベント設定とその後のタイムラプス設定は無視されます。

イベントアクション設定

センサー、動作検知、ビデオロスが検出された時に記録、アラーム出力動作およびまたは遠隔地への通報をプログラミングできます。メインメニューにおいて“アラーム入力イベントアクション”、“動作検知イベントアクション”または“ビデオロスイベントアクション”を選択して下さい。下記のようなイベント設定画面が表示されます。

アラーム入力イベントアクション（記録）設定画面

本機では個々のイベントに反応するよう設定できます。各センサーが“日程”、“カメラ”、“録画速度”、“画質”、“通報”に割り当てらることができます。

イラスト47　アラーム入力イベントアクション（録画）設定画面

“日程”の項目を選択し、↵ボタンを押して下さい。スケジュール画面が表示されます。前述の要領でスケジュールを設定して下さい。

“カメラ”の項目を選択し、↵ボタンを押して下さい。カメラ選択画面が表示されます。センサーを接続するカメラの番号を選択して下さい。

注）１台のセンサーを複数のカメラにつなげる事も可能です。

“録画速度”の項目を選択し、ドロップダウンメニューから記録する映像スピードを選択して下さい。

“録画画質”の項目を選択し、ドロップダウンメニューから記録する画質を選択して下さい。

“期間”の項目を選択し、イベントが発生した際に記録する時間の長さを設定して下さい。

アラーム入力イベントアクション（アラーム出力）設定画面

内部ブザーまたは外部アラームを動作させることにより個々のイベントに反応するよう設定できます。

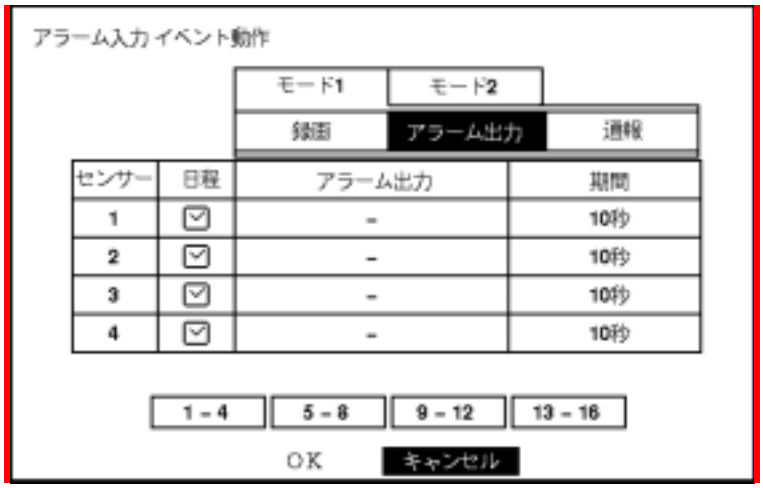


イラスト48　アラーム入力イベントアクション（アラーム出力）設定画面

“ 日程 ”の項目を選択し、ボタンを押して下さい。スケジュール画面が表示されます。前述の要領でスケジュールを設定して下さい。

アラーム出力の項目を選択し、ビープ音またはセンサーと関連づける映像出力端子のいずれかを選択して下さい。

期間の項目を選択し、出力保持時間の長さを選択して下さい。

注）期間が“O”に設定されていると、センサーが動作している間アラーム出力は動作し、センサーが動作していない間は、アラーム出力は動作しません。

アラーム入力イベントアクション（通報）設定画面

イベントが発生した時、遠隔へ通報するよう設定できます。

イラスト49　アラーム入力イベントアクション（通知）設定画面

“ 日程 ”の項目を選択し、ボタンを押して下さい。スケジュール画面が表示されます。前述の要領で設定を行なって下さい。

通報の項目を選択し、ボタンを押すとOnとOffを切り替えます。Onに設定されていると、定義づけられたスケジュールに基づいて発生するイベントを遠隔地に通報します。

モーション検知イベントアクション（録画）設定画面

本機は動作検知に対して個々に反応するよう設定できます。各カメラには日程、接続されたカメラ、録画速度、画質および期間が割り当てられます。

イラスト50　動作検知イベントアクション（録画）設定画面

“ 日程 ” の項目を選択し、ボタンを押して下さい。スケジュール画面が表示されます。前述の要領で設定を行なって下さい。

“ カメラ ” の項目を選択し、ボタンを押して下さい。カメラ選択画面が表示されます。接続するカメラの番号を選択して下さい。

注）動作を検知するカメラ１台で複数のカメラに関連付けることができます。

“ 録画速度 ” の項目を選択し、ドロップダウンメニューから記録する映像スピードを選択して下さい。

“ 録画画質 ” の項目を選択し、ドロップダウンメニューから記録する画質を選択して下さい。

“ 期間 ”の項目を選択し、関連づけられた動作イベントを記録する時間の長さを選択して下さい。

モーション検知イベントアクション（アラーム出力）設定画面

内部ブザーまたは外部アラームを動作させて、個々に動作イベントに反応するよう設定することができます。

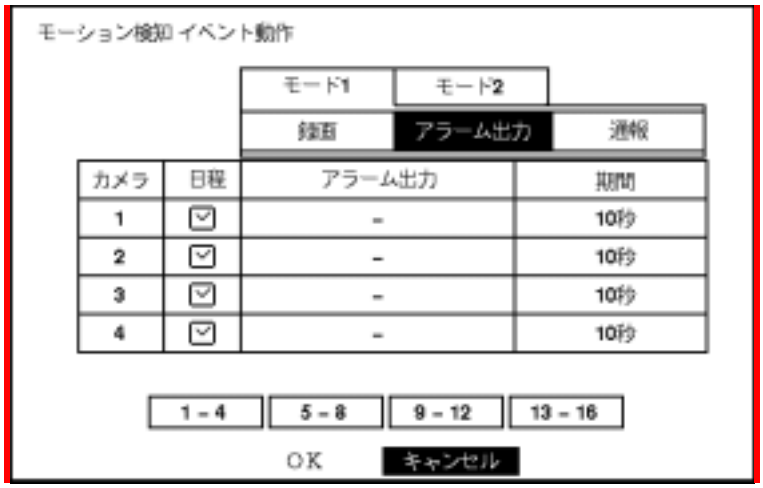


イラスト51　モーション検知イベントアクション（アラーム出力）設定画面

“ 日程 ”の項目を選択し、ボタンを押して下さい。スケジュール画面が表示されます。前述の要領でスケジュールを設定して下さい。

“ アラーム出力 ”の項目を選択し、ビープ音または動作イベントを関連づけるアラーム出力のいずれかを選択して下さい。

“ 期間 ”の項目を選択し、出力保持時間の長さを選択して下さい。

注）期間が“O”に設定されていると、センサーが動作している間アラーム出力は動作し、センサーが動作していない間は、アラーム出力は動作しません。

モーション検知イベントアクション（通知）設定画面

本機は動作イベントが作動すると遠隔地に通報するよう設定できます。

イラスト52　モーション検知イベントアクション（通知）設定画面

“ 日程 ”の項目を選択し、ボタンを押して下さい。スケジュール画面が表示されます。前述の要領で設定を行なって下さい。

“通報”の項目を選択し、ボタンを押して On と Offを切り替えます。“On”に設定されていると、定義づけられたスケジュールに基づいてイベントが発生すると、遠隔地に通報します。

ビデオロスイベントアクション（録画）設定画面

本機は各カメラのビデオロス（映像遮断）に対して反応するよう設定できます。各カメラには日程、接続されたカメラ、録画画質、画質および期間が割り当てられます。

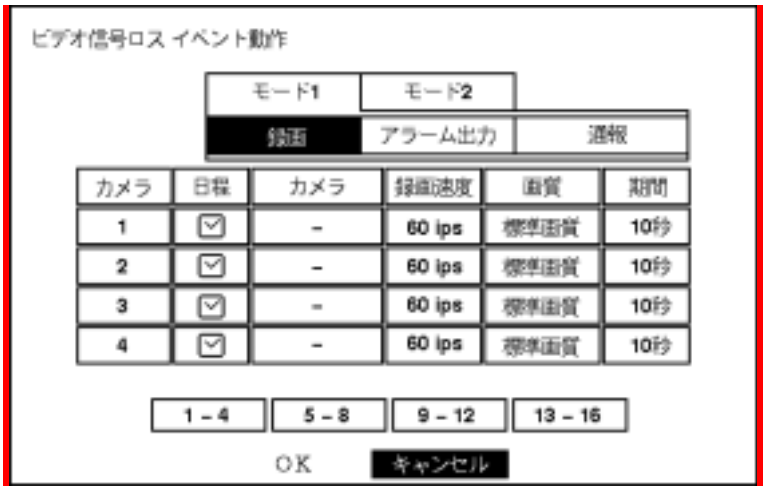


イラスト53　ビデオロスイベントアクション（記録）設定画面

“ 日程 ”の項目を選択し、ボタンを押して下さい。スケジュール画面が表示されます。前述の要領で設定を行なって下さい。

“ カメラ ”の項目を選択し、ボタンを押して下さい。カメラ選択画面が表示されます。映像が遮断されたカメラに関連づける番号を選択して下さい。

注）動作を検知するカメラ１台で複数のカメラに関連づけることができます。

“ 録画速度 ”の項目を選択し、ドロップダウンメニューから記録する映像スピードを選択して下さい。

“ 画質 ”の項目を選択し、ドロップダウンメニューから記録する画質を選択して下さい。

“ 期間 ”ボックスの項目を選択し、関連づけられたビデオロスを記録する時間の長さを選択して下さい。

ビデオロスイベントアクション（アラーム出力）設定画面

内部ブザーまたは外部アラームを動作させて、個々にビデオロスに反応するよう設定することができます。

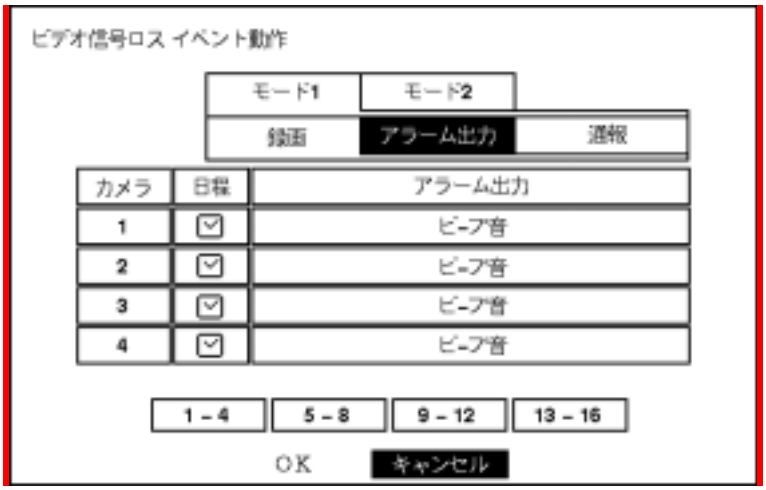


イラスト54　ビデオロスイベントアクション（アラーム出力）設定画面

“ 日程 ”の項目を選択し、ボタンを押して下さい。スケジュール画面が表示されます。前述の要領でスケジュールを設定して下さい。

アラーム出力の項目を選択し、ビデオロスの発生と関連づけるビープまたはアラーム出力端子のいずれかを選択できます。

ビデオロスイベントアクション（通報）設定画面

ビデオロスの時、遠隔地へ通報するよう設定できます。

イラスト55　ビデオロスイベントアクション（通報）設定画面

“ 日程 ”の項目を選択し、ボタンを押して下さい。スケジュール画面が表示されます。前述の要領で設定を行なって下さい。

“ 通報 ”の項目を選択し、ボタンを押してOnとOffを切り替えます。Onに設定すると定義されたスケジュールに基づいてカメラからの映像が遮断されると遠隔地に設置された本機に通知されます。

表示設定

メインメニューの中でOSD、メインモニタリングまたはスポットモニタリングを選択し、ボタンを押してメインモニターまたはサブモニターの画面表示またはカメラ表示を設定してください。

OSD（オンスクリーン表示）設定

日付、時刻、タイトルおよび状態を表示するための設定ができます。それぞれ表示・非表示にすることができ、余白を調整することができます。

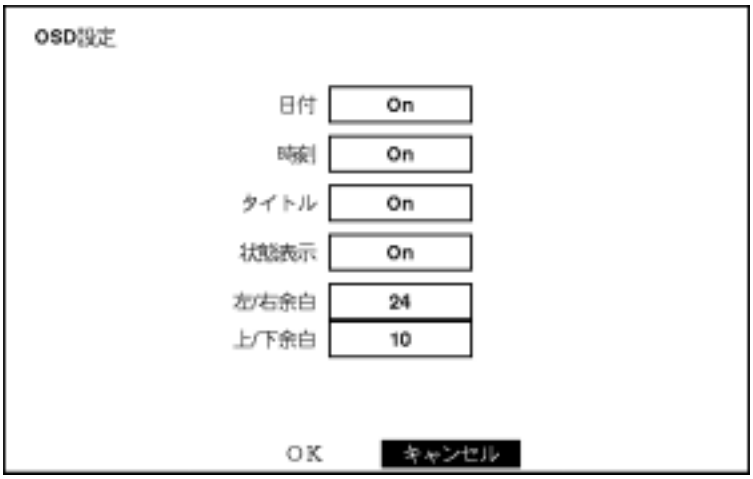


イラスト56　OSD設定画面

“ 日付 ”の項目を選択し、ボタンを押して日付表示OnとOffで切り替えます。

“ 時刻 ”の項目を選択し、ボタンを押して時刻表示をOnとOffで切り替えます。

“ タイトル ”項目を選択し、ボタンを押してタイトル表示をOnとOffで切り替えます。

“ 状態表示 ”の項目を選択し、ボタンを押して状態表示をOnとOffで切り替えます。

“ 左／右余白 ”の項目を選択し、ボタンを押して左右の余白を調整します。余白は1～24の間で設定できます。

“ 上／下余白 ”の項目を選択し、ボタンを押して上下の余白を調整します。余白は1～24の間で設定できます。

メインモニタリング設定画面

メインモニターに表示される各カメラの表示継続時間を調整できます。カメラ切替およびイベントモニタリングのOn、Offも設定できます。

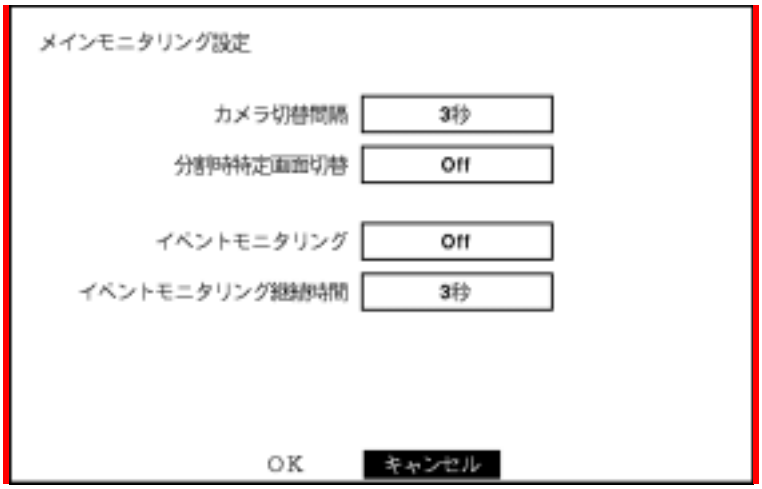


イラスト57　メインモニタリング設定画面

カメラ切替間隔の項目を選択し、↵ボタンを押して下さい。切替時間を3～60秒の間で調整できます。

分割時特定画面の項目を選択し、↵ボタンを押してOnとOffを切り替えます。

SEQUENCE/WIDEボタンを押すと、本気はカメラ映像を一定間隔ごとに切り替えます。カメラ切替には“ページ”と“カメオ（分割時特定画面）”2つのモードがあります。ページモードでは、本機はユーザーが定義した画面レイアウトでカメラ映像を切り替えます。カメオモードでは多画面フォーマットにおける右下の画面で全てのカメラの映像を一定間隔ごとに切り替えて表示します。

注）本機はカメオモードにおいてビデオロスがあると映像を一定間隔ごとに切り替えて表示できません。

さまざまな形式のレイアウトで定義できます。また全てのカメラの映像が表示されるよう異なる画面レイアウト（ページ）でシーケンシャルに表示するよう設定できます。
“ カメオ ”ウィンドウでカメラをシーケンシャル表示している間、いつでも１台のカメラまたは１グループのカメラを表示するよう設定することができます。（PIPの時にカメオウィンドウで表示している画面、またはマルチ画面で右下のウィンドウに表示している１つの画面をシーケンシャルに表示します。）

注）SHR-3161の４×４表示モードおよびSHR-3091の３×３表示モードではカメラ映像一定間隔切替表示ができません。

イベントモニタリングの項目を選択し、ボタンを押してOnとOffを切り換えて下さい。“On”に設定されていると、イベント検出センサーと関連づけられているカメラのうち、もっとも番号の若いカメラの映像がイベントモニタリング継続時間で設定された時間の間、アップ画面で表示されます。

イベントモニタリング継続時間の項目を選択し、 ボタンを押すと、イベントモニタリング継続時間を3～60秒までの間で調整できます。

スポットモニタリング設定画面

メインモニターに表示される各カメラの表示継続時間を調整できます。イベントモニタリングのOn、Offも設定できます。

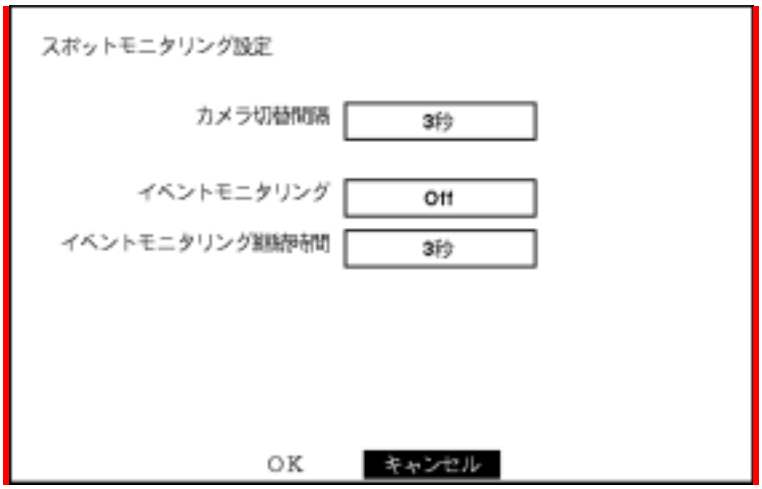


イラスト58　スポットモニタリング設定画面

カメラ切替間隔の項目を選択し、ボタンを押すと3～60秒の間で切替間隔を調整できます。

イベントモニタリングの項目を選択し、ボタンを押してOnとOffを切り替えて下さい。Onに設定されていると、イベント検出センサーに関連づけられているカメラのうち、最も若い番号のカメラの映像がイベントモニタリング継続時間で設定された時間の間、フル画面で表示されます。

イベントモニタリング継続時間の項目を選択し、ボタンを押すとイベントモニタリング継続時間を3～60秒の間で調整できます。

ネットワーク設定画面

ネットワーク設定画面ではLAN接続のための設定ができます。

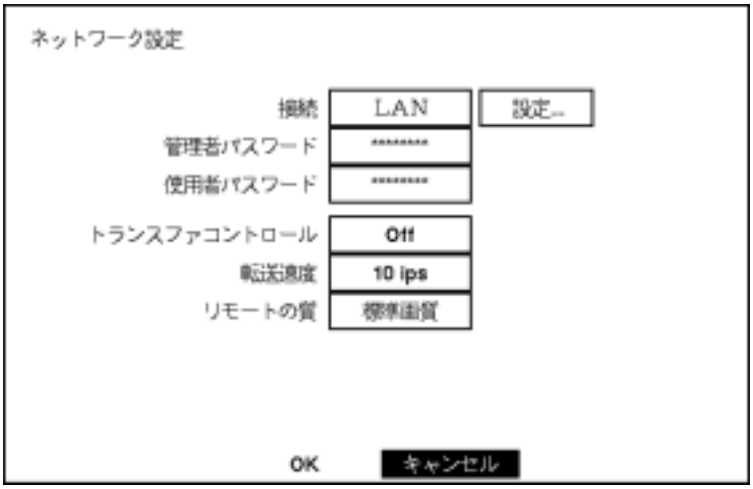


イラスト59　ネットワーク設定画面

接続の項目を選択し、↵ボタンを押してLanとModemを切り替えて下さい。

管理者パスワードの項目を選択し、↵ボタンを押すと、仮想キーボードが表示されます。まず現在のパスワードの入力を求められ、次に新しいパスワードの入力が可能となります。新パスワード認証の前に新パスワードの確認を求められます。

使用者パスワードの項目を選択し、↵ボタンを押すと、仮想キーボードが表示されます。まず現在のパスワードの入力を求められ、次に新しいパスワードの入力が可能となります。新パスワード認証の前に新パスワードの確認を求められます。

注）これらのパスワードはネットワーク用であり、DVR自体の管理者および使用者パスワードとは異なります。

注）これらのパスワードは機密事項です。管理者および使用者パスワードの工場出荷時の初期値は*12345678*です。

警告）パスワードは書きとめた上で安全な場所に保管して下さい。パスワードがリセットされると、初期化は動作しなくなります。パスワードを忘れてしまった場合、ファクトリーリセットを使ってリセットしなければならなくなります。（全てのデータは失われます）

転送制御の項目を選択し、↵ボタンを押してOnとOffを切り替えて下さい。Onに設定されていると、スマートビュープログラムを実行しているコンピューターへ伝送される映像の転送速度および画質を設定できます。

転送速度の項目を選択し、↵ボタンを押すと、1～30ipsの間で転送速度を選択できます。

注）設定される転送速度は最大の速度であり、ネットワーク環境によっては最大スピードにならない場合があります。

注）転送速度は各スマートビューに転送される映像比を表しています。２つのサイト（スマートビュー）がDVRに接続していると、ネットワーク経由で転送される映像の数は転送速度×２になります。

注） 転送制御オプションはDVRの録画能力に影響します。DVRに接続されるリモートサイト（スマートビュー）の数は録画速度に影響しません。現場での録画速度は転送速度によってのみ影響を受けます。DVRが遠隔接続されていなければ、現場の録画速度は影響を受けません。

注）転送制御が使用されていなければ、遠隔地へ転送されるデータ速度は現場での記録速度と同じになります。

遠隔画質の項目を選択し、ボタンを押して“最高画質”、“高画質”、“標準画質”、“低画質”から画質を選択して下さい。

LAN設定画面

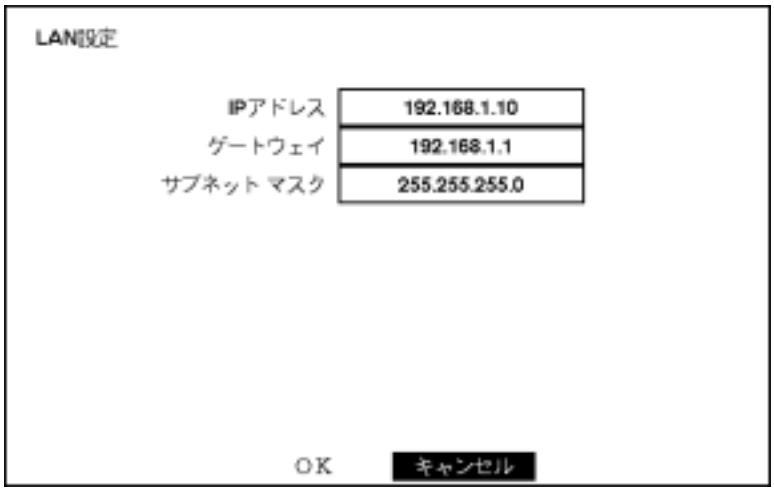


イラスト60　LAN設定画面

注）設定にはネットワーク管理者から正しいIP アドレス、ゲートウェイおよび サブネットマスクを入手する必要があります。

各項目を選択し、上下矢印ボタンを使って数字を増減させて変更して下さい。

工場出荷時のLAN設定初期値は下記の通りです。

IP アドレス: 192.168.1.129
ゲートウェイ: 192.168.1.254
サブネットマスク: 255.255.255.0

OKの項目を選択し、ボタンを押すとネットワーク設定画面に戻り、変更が保存されます。キャンセルを選択すると変更を保存せずに画面を終了します。

モデム設定画面

イラスト61　RS232／RS485設定画面

注）モデム設定はメインメニューからアクセスできるデバイスメニューの中のRS232/RS485画面で行ないます。

注）RS232ポートが遠隔制御で使用中の場合、ネットワーク機能はモデムによって設定することができません。まずRS232/RS485設定メニューで 外部モデムと通信するためRS232を設定して下さい。

RS232区分のボーレートの項目を選択し、ボタンを押して下さい。ボーレートが300～115,200の範囲で表示されます。

RS232区分のパリティの項目を選択し、ボタンを押して下さい。ドロップダウンリストが表示されます。“ 無し ”、“ 奇数 ”、“ 偶数 ”から選択して下さい。

RS232区分のデータの項目を選択し、ボタンを押して“ 7 ”ビットフォーマットと“ 8 ”ビットフォーマットの間で切り替えて下さい。

RS232区分のストップの項目を選択し、ボタンを押して“ 1 ”ストップビットと“ 2 ”ストップビットの間で切り替えて下さい。

OKの項目を選択し、ボタンを押すとネットワーク画面に戻り、変更が保存されます。キャンセルを選択すると変更を保存せずに画面を終了します。

コールバックセンター設定画面

本機ではスマートビュープログラムを実行しているパソコンと連絡を取るための設定ができ、イベントが発生するとLAN上でメールを送ることができます。また本機にモデムを接続していれば、イベントが発生すると数字のメッセージをポケベルにダイヤルするよう設定できます。

LAN接続によるコールバックセンター設定画面

イラスト62　コールバックセンター（LAN）設定画面

“ IP アドレス ”の項目を選択し、イベントが発生している間、接続させるコンピューターのIPアドレスを入力して下さい。

“ 再試行 ”の項目を選択し、本機が当該パソコンに接続を再試行する回数を入力して下さい。再試行する回数は1～10回の間で選択できます。

モデム接続によるコールバックセンター設定画面

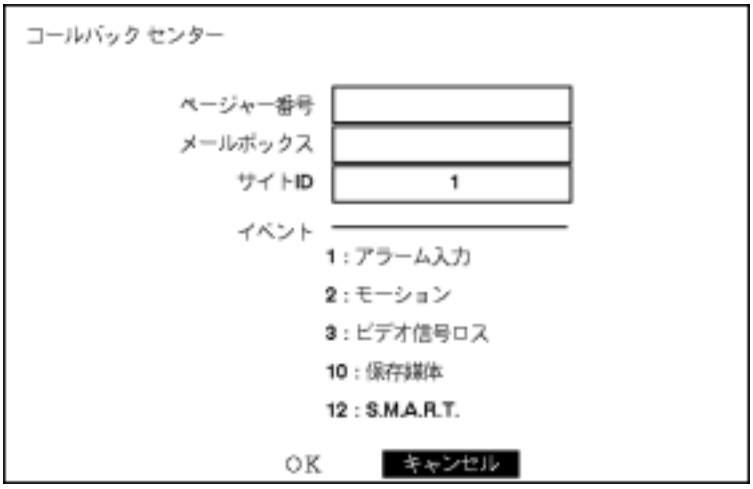


イラスト63　コールバックセンター（モデム）設定画面.

“ ページャー番号 ”の項目を選択し、ポケベルの電話番号を入力して下さい。現場の電話システムからダイヤルされるよう番号を入力して下さい。例えば外線をかける際に“ 9 ”を押す必要があれば、ポケベルの番号の前に“ 9 ”を入力して下さい。

お使いになるポケットベルが音声メールボックスを使用する場合は、“ メールボックス ”の項目を選択し、音声メールボックスの番号を入力して下さい。

“ サイトID ”の項目を選択し、３ケタのサイトID番号を入力して下さい。

イベントが発生すると、ポケベルにダイヤルし４桁または５桁の数字を残します。最初の３桁は現地のDVRのID番号で、残りはイベントの種類（1：アラーム入力、2：動作検知、3：ビデオロス、10：保存媒体不良、12：S.M.A.R.T警告）です。例えば“ 0753 ”は現地75でビデオロス発生を意味します。

注) 本機は呼び出しを行なっている間､最低４分待機します｡ポケベルへの通報を行なった後、４分未満に別のイベントが発生してもポケベルへはダイヤルしません｡これは電話回線がつながったままにならないようにするためのものです。

OKの項目を選択し、↵ボタンを押すと変更が保存されます。キャンセルを選択すると変更を保存せずに画面を終了します。

パスワード設定画面

システム終了、設定画面への移行、初期設定の読込、全データの消去、日付／時刻の変更および管理者パスワードの変更を行なうには管理者パスワードが必要となります。ライブモニタリングモードから再生、早送り、巻き戻しへの移行、ライブモニタリングモードにおける検索メニュー画面およびへ設定画面（クリップコピー設定画面のみへのアクセス）への移行、には使用者パスワードが必要となります。ライブモニタリングモードで動作中のアラームがない時にALARM/NEARボタンを押すと、イベントログが表示されます。メインメニューでパスワードの項目を選択し、↵ボタンを押してパスワード画面へ移行して下さい。

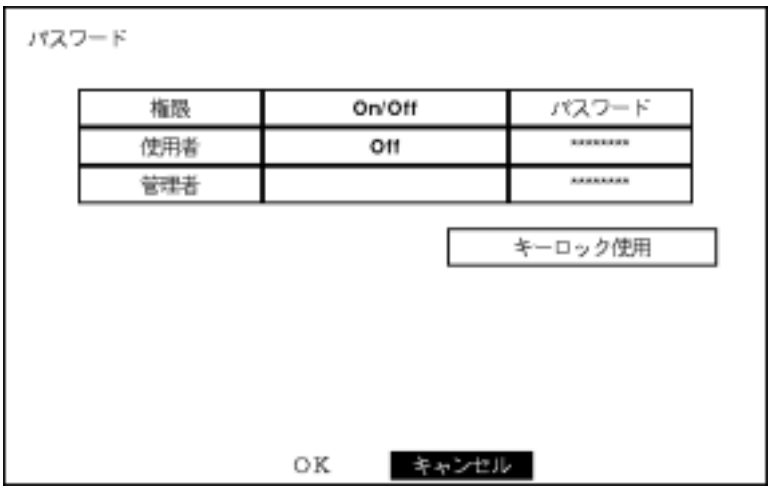


イラスト64　パスワード設定画面

“ 使用者 ”の項目を選択し、↵ボタンを押してOnとOffを切り替えられます。パスワードをOnに設定するとOffにできるよう現在のパスワードを求められます。
パスワードをOffに設定すると、新しいパスワードの入力をOnにする前にパスワードの確認を求められます。

管理者パスワードはOn／OFFの切り替えができません。最初に現在のパスワードを入力し、次に新しいパスワードを入力して最後にそのパスワードを確認することで管理者パスワードの変更ができます。

パスワードを変更するには“ パスワード ”の項目を選択し、↵ボタンを押して下さい。
ウィンドウが表示され、現在のパスワードの入力を求められます。現在のパスワードを入力すると別のウィンドウが表示され、カメラボタンを使って新しいパスワードを入力するよう求められます。↵ボタンを押した後、別の画面が表示され新しいパスワードを確認するよう求められます。

注）管理者および使用者パスワードはカメラボタンを使用した4桁の数字から構成されます。
使用者パスワードの初期値は1234、管理者パスワードの初期値は4321です。

警告）パスワードは書き写して安全な場所に保管して下さい。万一パスワードを忘れてしまうと、ファクトリーリセットボタンを押さなければならなくなります。（全てのデータが失われます。）

前面パネルボタンをロックするには“ キーロック使用 ”の項目を設定し、ボタンを押して下さい。いったんボタンがロックされると、どのフロントパネルのボタンを押してもパスワード画面が表示されます。ロックを解除するには正しいパスワードを入力する必要があります。パスワードは4321です。

OKの項目を選択し、ボタンを押すと変更が保存されます。キャンセルを選択すると変更を保存せずに画面を終了します。

設定画面

“ 設定 ”メニューは、簡易設定と通常設定の切替、ビデオクリップのコピー、初期設定の適用および全データの削除の実行に使用します。

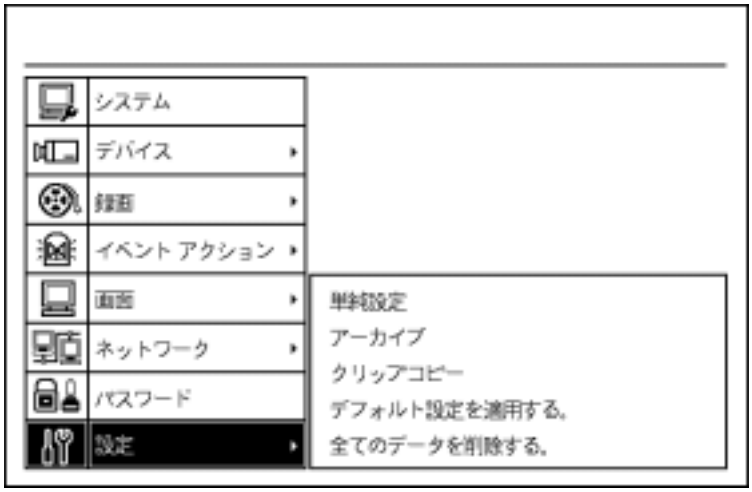


イラスト65　設定画面

アーカイブ

アーカイブ画面は自動または手動で記録映像を増設したハードディスクにアーカイブ（保存）するために使用します。

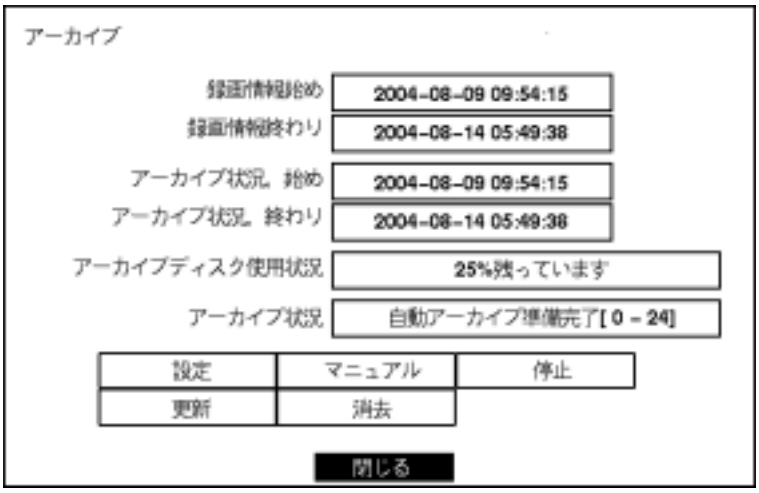


イラスト66　アーカイブ画面

最新の情報に更新するにはアーカイブ画面上で“ 更新 ”を選択します。

全てのアーカイブデータを消去するには“ 消去を ”選択します。

アーカイブパラメータを設定するには“ 設定 ”を選択します。

イラスト67　アーカイブ設定画面

“ ディスク終了 ”の項目を選択し、ボタンを押すと上書と停止を切り替えます。上書に設定されていると、保存媒体の容量が一杯になると古い映像に上書することによりアーカイブを続けます。停止に設定されていれば、保存媒体の容量がいっぱいになるとアーカイブを停止します。

“ 自動アーカイブ ”の項目を選択し、ボタンを押すとOnとOffを切り替えます。Onに設定されていると、“ ここからアーカイブ ”区分に設定されている時間から自動的に映像をアーカイブします。

“ ここからアーカイブ ”の項目を選択し、ボタンを押すとアーカイブを開始する日付／時刻を設定します。

“ ここから作業／ここまで作業 ”の項目を選択し、ボタンを押すと自動アーカイブの期間を設定します。

OKを選択し、ボタンを押すと変更を保存できます。キャンセルを選択すると変更を保存しずに画面を終了します。

“ マニュアル ”を選択すると、手動アーカイブパラメータを設定する画面が表示されます。

イラスト68　マニュアルアーカイブ画面

“ アーカイブ開始 ”および“ アーカイブ終了 ”の項目を選択し、ボタンを押してアーカイブを開始および終了する日付／時刻の設定を行ないます。

“ アーカイブ開始 ”および“ アーカイブ終了 ”の日付／時刻を設定したら今アーカイブするを選択し、ボタンを押して下さい。

停止を選択し、ボタンを押すといつでもアーカイブ処理を終了できます。

注）停止ボタンはアーカイブ実行中のときのみ表示されます。

注）大容量の記録映像をアーカイブする場合、録画を停止するかまたは録画速度をリセットして下さい。ハードディスク容量が一杯になるとアーカイブしたいデータのうち、始めの方のデータが上書されてしまうことがあります。

クリップコピー

クリップコピー画面では外部USDハードディスク、外部CD-RWまたはフラッシュメモリビデオクリップをコピーすることができます。コピーされた映像はマイクロソフトウィンドウズ98、ME、2000およびXP上のコンピューターで確認することができます。付録A　USBハードディスク準備（クリップコピーのための外部機器の準備に関する情報）を参照して下さい。

イラスト69　クリップコピー画面

バックアップを行なうためのデータソースを選択するため、一番上の項目を選択し、↵ボタンを押すと、利用できるデータソースのドロップダウンリストが表示されます。“ ローカル ”または“ アーカイブ ”から選択できます。

クリップコピーを使用するための記憶装置の種類を選択するにため、一番上の項目を選択し、↵ボタンを押すと利用できる記憶装置のドロップダウンリストが表示されます。“ USB HDD ”または“ USB CD-RW ”から選択できます。“ 音声 ”にチェックを入れると映像と一緒に記録された音声も保存します。

注）USB CD-RWを使用してクリップをコピーするためには、DVRに接続する外部SCSIハードディスクは２台以下にして下さい。

開始および終了の日付／時刻を変更することでコピーする映像の量を定義できます。またコピーするカメラの映像を選択できます。

“ ファイル名 ”の項目を選択し、↵ボタンを押すと、仮想キーボードが表示されます。コピーする映像のファイル名を入力し、“ 閉じる ”を選択すると、ファイル名に自動的にカメラ番号（例“ 01 ”）および“ .exe ”拡張子が追加されます。特定のフォルダーにファイルを保存する場合は“ ／ ”の後にフォルダー名を入力して下さい。例）“ フォルダー／ファイル名

ファイル名をつけたら、開始を選択し、⏎ボタンを押すとクリップコピーを開始します。

USB CD-RWを選択して操作を続ける場合、記憶装置の容量およびクリップのサイズを表示します。

２台以上のUSBハードディスクがインストールされていると、下記のようなUSB機器選択画面が表示されます。クリップコピーに使用するハードディスクを選択し、⏎ボタンを押して下さい。“ クリップコピーメニューに戻る ”を選択し、⏎ボタンを押すと画面を終了して変更を保存しないでクリップコピー画面に戻ります。

イラスト70　USB 機器選択画面

選択された記憶装置に２つ以上のパーティションがある時は、下記のようなディスクパーティション選択画面が表示されます。ファイル形式がFAT16またはFAT32でない場合、タイプは“ サポートされていません ”という表示になります。

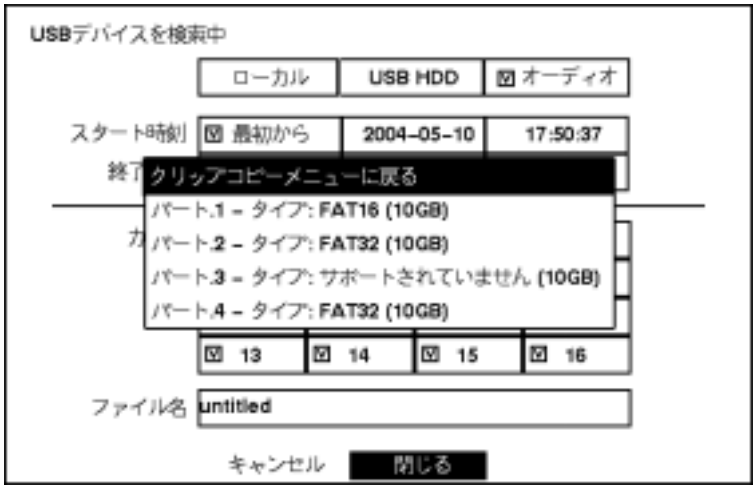


イラスト71　ディスクパーティション選択画面

クリップコピーに使用するために記憶装置およびパーティションを選択すると記憶装置の容量およびクリップサイズを表示し、操作を続けるか尋ねられます。

注）2GBの容量を越えるクリップをコピーしないで下さい。

映像をコピーしている間、他の機能を使用するには“ 閉じる ”を選択し、ボタンを押して下さい。処理状況をチェックするため、いつでもクリップコピー画面に戻ることができます。

注）CDに焼いている間はコピー処理を終了することができません。

付録B－ビデオクリップを見る（コピーした映像を検証する方法の説明）を参照して下さい。

注）クリップコピーしている間、システムの日付／時刻、システム終了、簡易設定モードへの切替、全データの削除、遠隔地からのシステム設定の変更はできません。

警告）クリップをコピーしている時にUSBケーブルまたは電源ケーブルを外さないで下さい。クリップのコピー中に外部記憶装置の電源が切れたり、USBケーブルが外れてしまうと本機が正常に作動しないか外部記憶装置が損傷を受ける可能性があり、次回クリップコピー操作を行なおうとした際、エラーメッセージが表示されます。その場合、本機の電源を切って再起動してエラーメッセージを消す必要があります。USB-IDEハードディスクのファイルシステムにエラーが発生すると、このエラーメッセージを消すことができません。DVR再起動後もクリップコピーを準備している間に自動的に再スタートしてしまいます。こうなると回復プログラムを使用してファイルシステムを回復するかハードディスクを再度フォーマットしてやらなければならなくなります。

初期設定の読込

“ デフォルト設定を適用 ”を選択すると、本当に初期設定を読み込むかパスワードを使って確認を求める画面が表示されます。

注）初期設定の読込では現在の時刻、時間帯、サマータイムおよびネットワーク設定を変更しません。

全データの消去

“ 全データを削除 ”を選択すると画面が表示され、本当に全データを消去するかパスワードを使って確認を求める画面が表示されます。

警告）全データの消去を選択すると記録された全ての映像が消去されます。

第４章　運用

注）この章では設置および設定が済んでいることが前提となります。まだ済んでいない場合はまず第２章および第３章をご覧下さい。

DVRの操作はVCRと似ています。VCRと同様、主な機能は映像の記録と再生ですが、より多彩な機能があります。一日のうちの時刻単位および週のうちの曜日単位に基づいて録画スケジュールを確立できます。VCRで利用できる以上に洗練された機能を用いて記録データを検索することができます。更にVCRにはない機能として遠隔制御および遠隔監視、再生しながらの映像の記録があります。

前面パネルの操作は「第３章　環境設定」で述べております。

電源を立ち上げる

「第２章　設置」の説明に基づいて設置が完了していれば、記録する準備ができています。

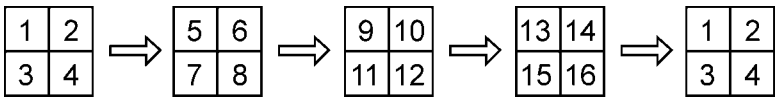
ライブ監視

起動が完了するとすぐに接続されたモニターにライブ映像が映し出され、接続されたスピーカーからライブ音声が聞こえます。初期モードは全てのカメラの映像を表示します。カメラボタンのいずれかを押すとそのカメラの映像が全画面表示されます。ユーザーが他のモードに移行するまでライブ映像が表示され、ライブ音声が聞こえます。

MODE/TELEボタンを押すごとに異なる表示形式で画面を表示します。

イベントが発生するとプリセット継続時間の間、モニターの全画面にそのイベントを表示するよう設定できます。イベント検知センサー付きのカメラのうち、最も番号の若いカメラの映像が表示されます。イベントモニタリング継続時間が経過するとイベント発生前の画面表示へ戻ります。イベントモニタリングが動作している間は、全てのほかの一連のイベントは無視されます。各カメラのボタン、またはMODE/TELEボタンを押すと、現在のイベントモニタリングを解除し、選択されたカメラの映像を表示するか以前の画面形式へ戻ります。

SEQUENCE/WIDEボタンを押すとモニターにカメラの映像を一定の間隔で切り替えて表示します。マルチ画面フォーマットの時にSEQUENCE/WIDEボタン押すと、ユーザーが定義した画面レイアウト（ページシーケンス）または右下の画面（カメオシーケンス）にライブのカメラ映像を一定間隔で切り替えて表示します。他の表示モードを選択するかまたはSEQUENCE/WIDEを再度押すと、シーケンシャルモードを終了します。他画面形式の時に、左右矢印ボタンを押すと、１つ前の画面または次の画面に移行します。例えば、４×４形式の時に右矢印ボタンを押すと本機は次のようにページを変更します。



スポットモニターでカメラ映像切替表示をするには、SPOT/PRESETボタンを押し、次にSEQUENCE/WIDEボタンを押して下さい。

FREEZE/FARボタンを押すと再度ボタンを押すまで画面をフリーズします。

カメオ実行モード

マルチ画面モード形式の時にボタンを押すことにより、カメオ実行モードに移行できます。映像の下にある灰色に反転したボックスは実行中のカメオを表していて、矢印ボタンを押すと実行中のカメオが移動します。カメオ実行中にボタンを押すと、カメオ実行モードを終了します。引き続き操作をしない場合、カメオ実行モードは１５秒間保持されます。

カメオ実行モードにおいて実行中のカメオの映像を確認する場合カメラボタンを押します。カメオ実行時にカメラ番号を設定した後、本機は実行中のカメオから次のカメオへ移動します。この処理を用いて画面レイアウトを変更できます。

カメオの実行はパン、チルト、ズーム機能を制御するたものカメラを選択するためにも使用できます。

PIPモード

MODE/TELEボタンを押すと画面内画面（PIP）が表示できます。上下矢印ボタンを押すとPIPの位置を、左右矢印ボタンを押すとサイズを変更できます。

PTZモード

本機ではパン、チルト、ズーム機能のあるカメラを制御できます。PTZボタンを押すとPTZモードに移行します。前面パネルの操作ボタンを使うかまたはプリセットを設定してカメラを制御できます。前面パネルボタンを使う制御については、左右方向への移動（＝パン）は左右矢印ボタンを、上下方向への移動（＝チルト）は上下矢印ボタンを押して下さい。ズームインするにはMODE/TELEボタンを、ズームアウトするにはSEQUENCE/WIDEボタンを押して下さい。またFREEZW/FARとARARM/NEARボタンを使って映像のフォーカス調整ができます。

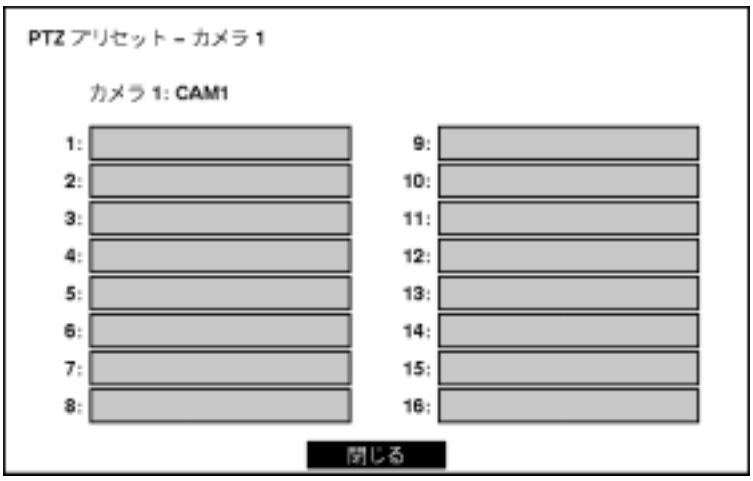


イラスト72　PTZプリセット画面.

イラスト73　プリセット確認画面.

任意の画角に直接移動できるよう“ プリセット ”を設定しカメラ位置を保存することができます。カメラを任意に設定し、SPOT/PRESETボタンを押すとPTZプリセットダイアログボックスが表示されます。プリセットを割り当てる番号を選択し、↵ボタンを押して下さい。仮想キーボードを使用してプリセット名を入力して下さい。PTZプリセットを読み込むには MENU/VIEWボタンを押して下さい。プリセットビューダイアログボックスが表示されます。任意のプリセットを選択し、↵ボタンを押してプリセットを読み込んで下さい。

映像記録

「第２章　設置」をご覧になり、本機の設置が完了したら、記録の準備が整います。設定を変更しない限り、本機は記録を開始し、ハードディスクドライブの容量が一杯になるまで記録し続けます。

工場出荷時の設定を変更しないで録画することもできますが、DVRの多彩な機能を利用されることをお薦めします。「第３章 設定（録画モードオプションの詳しい説明）」をご覧下さい。

音声記録

音声記録の設定を行なうと、記録中、映像と同時に音声を記録します。

注）音声の記録は法律、条令に従って行なって下さい。

記録映像の再生

記録した映像はPLAY/PAUSEボタンを押すことで確認できます。初めて映像を再生すると最も新しい映像が再生されます。その後再び再生すると、最後に呼び出された映像から再生を始めます。

注）管理者レベルの使用者のみ非表示カメラを確認できます。再生モードにおける非表示カメラは現在のカメラ設定によって決定されます。

再度PLAY/PAUSEボタンを押すと画面上の映像がフリーズします。

RW（巻き戻し）ボタン

RWボタンを押すと高速で映像を巻き戻します。ボタンを再度押すと巻き戻しスピードを◀◀から◀◀◀、◀◀◀◀に切り替えます。画面には◀◀、◀◀◀、◀◀◀◀がそれぞれ表示されます。

ライブ監視モードから高速巻き戻しモードへの移行はパスワードにより保護されます。

FF（早送り）ボタン

FFボタンを押すと映像を早送りします。再度ボタンを押すと再生スピードを▶▶から▶▶▶、▶▶▶▶に切り替えます。画面には▶▶、▶▶▶、▶▶▶▶がそれぞれ表示されます。

ライブ監視モードから高速早送りモードへの移行はパスワードにより保護されます。

SEARCH/STOP（検索／停止）ボタン

再生中にSEARCH/STOPボタンを押すとライブ監視モードに戻ります。

カメラボタン１～１６

カメラボタンのどれかを押すとそのカメラの映像が全画面で表示されます。

MODE/TELEボタン

MODE/TELEボタンは異なる画面レイアウトに表示を切り替えます。表示モードは単画面、4x4, 3x3および 2 x 2です。

注）映像を再生中は表示形式を変更できません。まず映像を一時停止し、表示形式を変更して下さい。

注）最高画質、最高速度で記録映像を再生する場合、記録音声の再生が時折干渉を受けることがあります。

注）再生中は遠隔地から背低を変更できません。

映像検索

検索メニューを表示するにはSEARCH/STOPボタンを押して下さい。

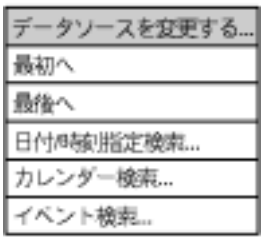


イラスト74　検索メニュー.

- データソースを変更する — 検索するデータソースを変更します。（詳細は次ページをご覧下さい。）
- 最初へ — 録画データの最初の映像を表示します。
- 最後へ— 録画データの最後の映像を表示します。
- 日付／時刻指定検索… — 日付および時刻による検索（詳細は次ページをご覧下さい。）
- カレンダー検索… — カレンダーを使用しての検索(詳細は次ページをご覧下さい。)
- イベント検索… — イベントログからの検索(詳細は次ページをご覧下さい。)

注）全カメラチャンネルがプリアラーム記録モードにあると、検索速度が減少します。

データソースを変更する

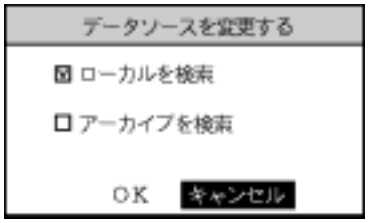


イラスト75　データソース画面の変更

ローカル記憶装置（ローカルを検索）またはアーカイブ記憶装置（アーカイブを検索）からデータソースを選択できます。データソースを選択するには検索するデータソースを選択し、↵ボタンを押して下さい。

日付／時刻検索

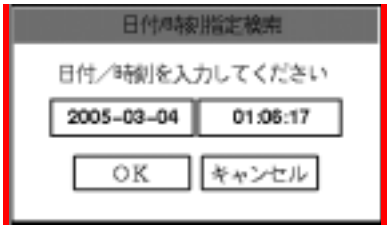


イラスト76　日付／時刻検索画面

カーソルを日付の上にもっていき、↵ボタンを押して下さい。左右矢印ボタンを使って、年、月、日の項目を選択して下さい。上下矢印ボタンを使って映像を検索したい日付に変更し、↵ボタンを押して下さい。

カーソルを時刻の上にもっていき、↵ボタンを押して下さい。左右矢印ボタンを使って、時、分、秒の項目を選択して下さい。上下矢印ボタンを使って映像を検索したい時刻に変更し、↵ボタンを押して下さい。

検索する日付および時刻を設定したらOKボタンを選択し、↵ボタンを押して下さい。選択された日付および時刻が表示されます。（選択された時刻に映像が記録されていない時は画面には何も表示されません。）PLAY/PAUSE、RW、FF、PREVおよびNEXTボタンを使って周辺の映像を検証できます。

カレンダー検索

イラスト77　カレンダー検索画面

映像が記録されている日が白色の数字でカレンダーに表示されます。矢印ボタンを使って映像が記録されている日を反転表示させ、↵ボタンを押して下さい。

タイムバーがカレンダー下に表示されます。映像が記録されている時間帯が青色で表示されます。上下矢印ボタンを使用してタイムバーを選択して下さい。タイムバーが反転したら左右矢印ボタンを使用して時間を選択できます。

注）タイムバーは１時間ごとに区切られています。もしその時間帯が反転していれば、その間に映像が記録されたことを表わしています。ただし、その時間帯全ての映像が記録されているということではありません。

検索する日付および時刻を設定したら、“ 移行 ”ボタンを選択し、↵ボタンを押して下さい。選択した日付および時刻が表示されます。PLAY/PAUSE、RW、FF、PREVおよびNEXTボタンを使って周辺の映像を検証できます。

イベント検索

イラスト78　イベントログ画面

本機はアラーム入力ポートが動作するごとのログを保持します。イベントログ画面はこのリストを表示します。矢印ボタンを使用してご覧になりたいイベントを選択して下さい。

注）データソースが“ アーカイブを検索 ”に設定されているとイベント検索は動作しません。

ボタンを押すとイベント映像およびイベントの最初の画像を抽出します。PLAY/PAUSEボタンを押すと、“ イベント映像 ”の再生を開始します。SEARCH/STOPボタンを押すと、ライブ映像に戻ります。MENU/VIEWボタンを押すとイベントログに戻ります。

検索...ボタンを選択して新しい検索条件を設定することにより、イベント検索を絞り込むことができます。

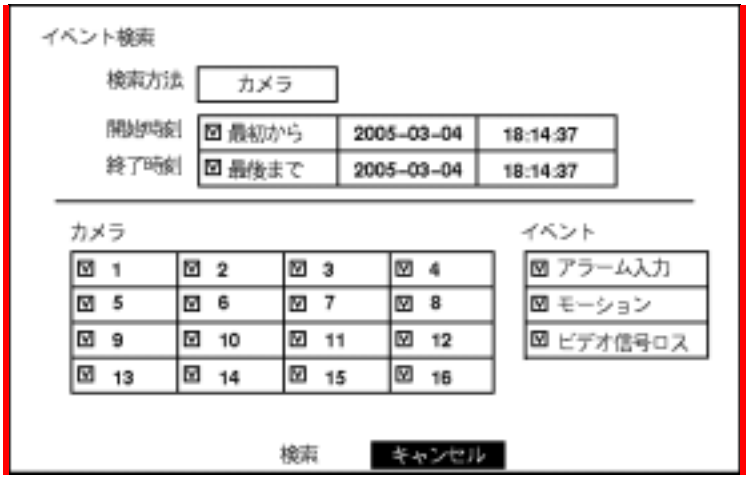


イラスト79　イベント検索（カメラ）画面

イラスト80　イベントサーチ（イベント）画面

検索方法の項目を選択し、ボタンを押してカメラとイベントを切り替えて下さい。

記録されたはじめから終わりまでの映像を検索できます。また開始および終了の日付・時刻を設定できます。

“ 検索方法カメラ ”を選択する場合は検索対象のカメラとイベントオプションを選択して下さい。“ 検索方法イベント ” を選択する場合は各機器のイベントオプションを選択して下さい。

ご希望の検索状況を設定したら、“ 検索 ”の項目を検索し、ボタンを押してイベントログ画面に検索結果を表示します。キャンセルを選択すると変更を保存せずに画面を終了します。

付録A　USBハードディスク準備

Windows2000版でUSB-IDEハードディスクを準備する

注）ウィンドウズXPの元でUSB-IDEハードディスクを準備すると、ほとんどの場合ウィンドウズ2000として認識されます。

1. USBケーブルを使ってUSB-IDEハードディスクをお手持ちのパソコンに接続して下さい。
2. パソコンを起動して下さい。
3. タスクバーにUSB機器アイコンが表示されます。
4. USB-IDEハードディスクにパーティションが設定されている場合や、データがある場合は、ハードディスクアイコンがマイコンピュータ内に表示されます。
   アイコンを右クリックしてプロパティを選択し、全般タブの中からファイルシステムを確認して下さい。
   ファイルシステムがFAT32形式でない場合は、USB-IDEハードディスクを、FAT32形式を使ってフォーマットして下さい。
5. USB-IDEハードディスクにパーティションが設定されていない場合は、コントロールパネルから管理ツールアイコンをダブルクリックし、コンピューターの管理アイコンをダブルクリックして下さい。
   USB-IDEハードディスクの割り当てられていない領域を右クリックして記憶域から“ディスクの管理”を開き、パーティションの作成をクリックして下さい。
6. パーティション作成ウィザードで「次に」をクリックして初期パーティションをクリックし、画面の指示に従って下さい。ファイルシステムにFAT32が選択されていることを確認して下さい。

注）パーティションサイズはマイクロソフト社の制限があるため３２GB以下にして下さい。

フォーマットが完了した後、USB-IDEハードディスクはマイコンピュータに追加されます。

7. USB-IDEハードディスクを本機に接続して下さい。

Windows98版でUSB-IDEハードディスクを準備する

注）Windows MEのもとでUSB-IDEハードディスクを準備すると、ほとんどの場合Windows98として認識されます。

1. USBケーブルを使ってUSB-IDEハードディスクをお手持ちのパソコンに接続して下さい。
2. パソコンを起動して下さい。新ハードウェアの追加ウィザードウィンドウが表示されます。
3. 接続するUSB-IDEハードディスクに付属の取扱説明書をご覧になりながら、USBバックアップ機器のためのデバイスドライバーをインストールして下さい。
4. USB-IDEハードディスクにパーティションが設定されている場合や、データが含まれている場合は、マイコンピュータ内にハードディスクアイコンが表示されます。アイコンを右クリックしてプロパティを選択し、全般の中のファイルシステムを確認して下さい。ファイルシステムがFAT32形式でない場合は、USB-IDEハードディスクを、FAT32形式を使ってフォーマットして下さい。
5. スタートをクリックしてRUNを選択し、FDISKユティリティを起動させて下さい。“ fdisk ”とタイプしてOKをクリックして下さい。
6. MS-DOSコマンドが画面上に表示されたら“ Y ”をタイプし、Enterキーを押して下さい。
7. FDISKオプションメニューで、“ 5.現在固定されているディスクを変更する ”を選択して下さい。
8. USB-IDEハードディスクに対応する文字を選択して下さい。
9. FDISKオプションメニューで“ 1. DOSパーティションをまたは論理DOSドライブを作成する ”を選択して下さい。 ”
10. “ １. DOSパーティションをまたは論理DOSドライブを作成する ”メニューの中で“ １. 初期のDOSパーティションを作成する ”を選択し、“ Y ”を選択して全ての空きスペースを使える状態にし、Enterキーを押して下さい。ESCキーを押すとUSB-IDEハードディスクパーティションが作成された後、画面を終了します。
11. パソコンを再起動して新しく作成されたドライブがマイコンピュータ内にあることを確認して下さい。
12. 新しく作成されたドライブのアイコンを右クリックして、“ フォーマット ”を選択して下さい。
13. フォーマット画面内において、“ フォーマットタイプ ”で“ 全て ”を選択し“ スタート ”をクリックして下さい。
14. フォーマットが完了した後、USB-IDEハードディスクを本機に接続して下さい。

付録B　ビデオクリップを見る

注）パソコンでSmart Viewを運用するにはCPUがペンティアムIII 800MHZ以上であることが必要です。それ以下の場合には、最高画質かつ最大記録コマ数で記録されたバックアップファイルは通常より遅い速度で再生されます。

本機からUSB-IDEハードディスクを取り外し、お手持ちのパソコンに接続して下さい。
ご覧になりたいバックアップファイルをダブルクリックするとSmart Viewが起動
します。

注）ビデオを見るためパソコンに特別なソフトをインストールする必要はありません。バックアップファイルにはSmart Viewが含まれています。

イラスト81　Smart View画面

モニターリング画面にはバックアップされた映像が表示されます。画面上で右クリックすると320×240と640×480の間で画面サイズが切り替わります。

ハイドボタンをクリックするとSmart Viewの窓を最小化します。

終了ボタンをクリックするとSmart Viewを終了します。

現在の映像情報表示ウィンドウには現在の映像の情報が表示されます。カメラタイトルには現在の映像のカメラの名称が表示され、日付には記録された映像の日付／時刻が表示されます。

バックアップファイル表示ウィンドウにはバックアップファイルに関する情報が表示されます。位置にはバックップされているDVRの説明が表示されます。録画にはビデオバックアップファイルの時間の長さが表示されます。暗号にはバックアップファイルが不正に手を加えられたかどうかを表示します。“ 正常 ”はファイルに手が加えられてないことを表わし、“ 異常 ”はファイルに不正に手が加えられたのを検出したことを表わします。“ 不明 ”はユーザーが暗号化チェックを中止したことを表わします。

“ 映像検索スライドバー ”は現在の再生位置を表示します。スライドバーに沿ってマウスをクリック＆ドラッグすることで別の画像に移動することができます。

“ 明るさ調節スライドバー ”ではスライドバーに沿ってマウスをクリック＆ドラッグすることでバックアップ映像の明るさを調整します。バーの両端にある矢印ボタンを使って明るさをすこしずつ変更することができます。

“ 明るさ調節初期化ボタン ” ではオリジナルの映像を再読込します。

再生関連ボタンには「巻き戻し」、「再生」、「一時停止」、「早送り」があり、先頭の画像、1つ前の画像、次の画像および1番最後の画像に移動できます。

“ 保存 ”ボタンをクリックすると現在の画像をビットマップファイルでローカルハードディスクまたはフロッピーディスクに保存します。

“ 印刷 ”ボタンをクリックすると現在の画像をパソコンに接続されているプリンターで印刷します。

“ 音消去 ” ボタンを久律すると記録された音声を出力しないようにします。

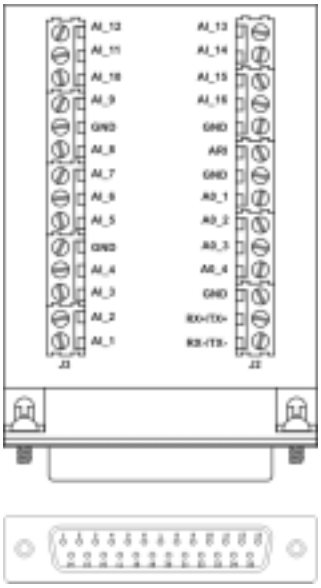
“ 映像情報表示 ”ボタンをクリックするとオンスクリーンディスプレイオプションに切り替わります。映像情報にはカメラの場所と日付／時刻が含まれます。

付録C　トラブルシューティング

問題	確認事項
電源が入らない	• 電源ケーブルの接続を確認して下さい。 • 電源コンセントに電気が来ているか確認して下さい。
ライブ映像が映らない	• カメラの映像ケーブルおよび接続を確認して下さい。 • モニターの映像ケーブルおよび接続を確認して下さい。 • カメラに電源が供給されているか確認して下さい。 • カメラレンズの設定を確認して下さい。
ライブ映像が明るすぎる	ケーブルが“ Loop ”に接続されている場合は、適切な終端機器に接続されているか確認して下さい。
記録が停止してしまっている	ハードディスクの容量が一杯になっている時は、映像を削除するか本機を上書モードに設定する必要があります。
設定されている現在の日付･時刻より後の最後に記録された映像の日付･時刻の状態で、エラーメッセージが表示される	本機は最後に記録された日付・時刻に従って自動的に日付・時刻をリセットします。もしこの日付・時刻が正しくない場合は日付・時刻を本書の「日付・時刻の設定」を参考に、リセットして下さい。 もし正しい日付・時刻が最後に記録された映像の日付・時刻より前の場合には、日付・時刻をリセットすると、それらの映像が失われます。

付録D　コネクターピン出力

アラームI/Oコネクターおよび**RS485**コネクターピン出力



ピン番号	割り当て	ピン番号	割り当て
1	RS485 RX-/TX-	14	RS485 RX+/TX+
2	アース	15	アラーム出力2
3	アラーム出力	16	-
4	アラームリセット	17	アース
5	アラーム入力16	18	アラーム入力15
6	アラーム入力14	19	アラーム入力13
7	アラーム入力12	20	アラーム入力11
8	アラーム入力10	21	アラーム入力9
9	アース	22	アラーム入力8
10	アラーム入力7	23	アラーム入力6
11	アラーム入力5	24	アラーム入力4
12	アラーム入力3	25	アラーム入力2
13	アラーム入力1		

付録E　ハードディスクの増設および交換

ハードディスクの増設

1. 本機の電源をお切り下さい。
2. スレイブハードディスクを増設して下さい。

注）増設するハードディスクが一度使われたものである場合は、はじめにWindowsパソコンでフォーマットして下さい。

3. 再度電源を立ち上げて下さい。

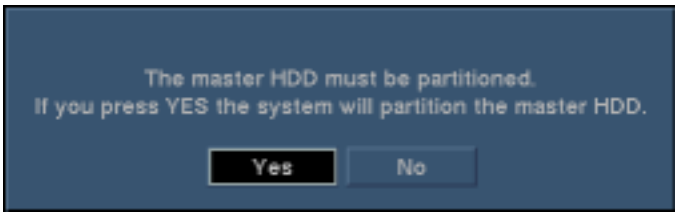
ハードディスクの取り外し

1. 本機の電源をお切り下さい。
2. スレイブハードディスクを取り外して下さい。
3. 再度電源を立ち上げて下さい。

ハードディスクの交換

ケースⅠ: 異常のあるマスターハードディスクを交換する

1. 新しい１次IDEハードディスクを準備する。
2. 本機の電源を切り、以上のあるマスターハードディスクを取り外して下さい。
3. 一次IDEハードディスクを接続して下さい。
4. 本機の電源をOnにすると下記のような画面が表示されます。“ Yes ”を選択し、新しいハードディスクを準備して下さい。



5. 新しいハードディスクがパーティションで区切られると、システムを再起動するかどうか尋ねられます。OKを選択してシステムを再起動して下さい。

ケースⅡ: 異常のあるスレーブハードディスクを交換する

1. まず、記憶装置チェック機能を使って異常のあるハードディスクを検出して下さい。

注）メニューモードで“保存媒体”メニューを選択して下さい。 保存媒体画面に異常のあるハードディスクに関する情報が表示されます。

2. 電源をお切り下さい。
3. 異常のあるスレーブハードディスクを取り外し、新しいハードディスクをインストールして下さい。ジャンパー位置が正しく設定されていることを確認して下さい。
4. 再度電源をOnにして下さい。

警告）使用済みのハードディスクをスレーブ位置にインストールする場合、新しくインストールされたハードディスクの全てのデータは失われます。

ハードディスクを他のデジタルレコーダーに移設する

1. 問題のあるデジタルレコーダーの電源を切り、インストールされている全てのハードディスクを取り外して下さい。
2. 問題のあるデジタルレコーダーから取り外したハードディスクをテストするため正常なデジタルレコーダーを用意して下さい。
3. 正常なデジタルレコーダーの電源をお切り下さい。すでにインストールされたハードディスクがある場合は取り外して下さい。
4. 問題のあるデジタルレコーダーから取り外したハードディスクを正常なデジタルレコーダーの同じ位置にインストールして下さい。
5. 正常なデジタルレコーダーの電源を再度立ち上げて下さい。

警告）
1.使用済みのマスターハードディスクを一次マスターではなく、別の機器の一次以外に位置にインストールすると、マスターハードディスクの全てのデータは失われます。
2. 使用済みのマスターハードディスクを別の機器の一次マスターとしてインストールし、そのハードディスクに記録データが残っていると、別の機器でハードディス上にインストールされた全てのデータは失われます。DVRにインストールされているハードディスクのデータを保持したい場合は別のDVRにインストールする前に使用済みハードディスクの全てのデータを消去して下さい。入力チャンネルの異なる別のDVRに使用済みのハードディスクをインストールしないで下さい。DVRが損傷することがあります。

付録F　画面マップ

メニュー
システム
システム情報
日付・時刻
システム検査
保存媒体
システムログ
システム・シャットダウン
デバイス
カメラ
アラーム-入力
モーション感知
アラーム-アウト
オーディオ
RS232/RS485
録画
録画モード
タイムラプス録画
プリ-イベント録画
イベントアクション
アラーム-入力アクション
モーション感知アクション
ビデオ信号ロスアクション
画面
OSD
メイン・モニタリング
スポットモニタリング
ネットワーク
ネットワーク設定
コールバックセンター
パスワード
設定
単純設定
アーカイブ
クリップ・コピー
デフォルト設定を適用する
全てのデータを削除する

付録G　仕様

映像	
TVシステム	NTSC、PAL（スイッチによる選択）
映像入力	コンポジット：9（SHR-3090）または16（SHR-3160）ループ入力、1Vp-p自動終端、75Ω
モニター出力	コンポジット: 1、1 Vp-p、75Ω SVHS: 1 スポット: 1 BNC
解像度	720×480（NTSC）、720×576（PAL）
再生／記録スピード（image per second）	標準解像度: 60/60ips (NTSC)、50/50ips (PAL) 高解像度: 30/30ips (NTSC)、 25/25ips (PAL)

入力／出力	
アラーム入力	9 または16 TTL、NC／NOプログラム可能、しきい値：4.3V、付属のアラームI/Oボードを使用
アラーム出力	4 TTL オープンコレクター、5mA@12V、30mA@5V
アラームリセット入力	1 TTL、4.3V しきい値、付属のアラームI/Oボードを使用
ネットワークコネクティビティ	10/100 Mbps イーサネット 外部モデム用RS-232
音声入力	RCA 入力: 1 “ライン入力” または“マイク ” プログラム可能
音声出力	1 “ ライン ”

コネクター	
映像入力	コンポジット：9 または16 BNC
ループ	コンポジット：9 または16 BNC
モニター出力	コンポジット: 1 BNC SVHS: 1 Y/C スポット: 1 BNC
音声入力	RCAコネクター
音声出力	RCAコネクター
アラーム／RS485	DB-25　オスコネクター（アラームI/Oボード共用）
イーサネットポート	RJ-45
RS232シリアルポート	DB9 (P)
ウルトラワイドSCSIポート	高密度68ピンメスコネクター
USBポート	2 (USB2.0)

仕様は予告なく変更することがあります。

記憶装置	
一次記憶装置	EIDEハードディスク（２台まで）
バックアップ記憶装置	ウルトラワイド SCSI ハードディスク (RAID) USB ハードディスク、CD-RW またはフラッシュメモリ

全般	
外形寸法	430mm x 44mm x 399mm
重量（正味）	6.5kg
重量（梱包時）	9.1kg
外形寸法（梱包時）	540mm x 175mm x 510mm
動作温度	5°C ~ 40°C
動作湿度	0% ~ 90%
電源	AC100 ～ 240 V、1/2 A、 60/50Hz 自動電圧調整アダプター付属
入電圧／電流	DC 12V
電力	最大70W
承認	FCC、CE

仕様は予告なく変更することがあります。